

Sen'i Gakkaishi
(Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan)

繊維学会誌

特集 〈ISF2024 Plenary Speakers〉



2025 Vol.81 7

一般社団法人 繊維学会

Matsuba Lab



山形大学 大学院有機材料システム研究科

工学部 高分子・有機材料工学科

松葉研究室

高分子・有機材料の 高機能化に向けた精密構造解析

高分子構造解析
技術の開発



高速度カメラ
顕微鏡の開発



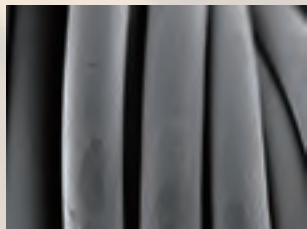
延伸時の in-situ
SAXS/WAXS 測定

最先端の
測定手法の利用



広い空間・時間スケール
での構造モデル作製

セルロースナノファイバー加工繊維

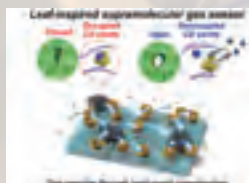


繊維構造



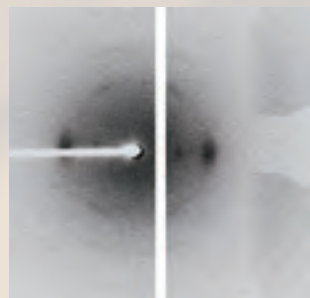
大型施設の利用
(Spring-8, KEK, Nanoterasu)

高分子・有機材料の
高機能化



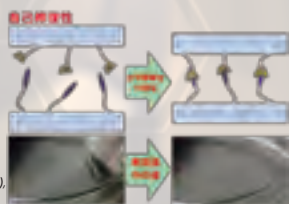
高強度化・高機能化・
タフ化・分解性の制御
(例) 自己修復性材料
の応用

ACS Appl. Mater.
Interfaces, 15(33), 39777 (2023).



X線散乱による結晶配向

Advanced Materials, 32(29),
202002008 (2020).



松葉研究室では、高分子・有機材料の精密解析技術を利用し、新たな機能を開拓します。

SPRING-8やNanoTerasuなどの大型施設の利用を通して、企業や大学、研究所との共同研究を推進しています。

特にセルロース材料や生分解性樹脂、高分子材料の分解など幅広い研究を行っています。

山形大学 大学院有機材料システム研究科
工学部 高分子・有機材料工学科 松葉研究室

住所 〒992-8510 山形県米沢市城南4-3-16 電話 0238-26-3053

Web Page <https://matsuba-lab.yz.yamagata-u.ac.jp/>



毛髪1本でも摩擦係数の測定が可能！

摩擦係数計NRF型

摩擦係数は相手材料の材質・表面処理による違いによっても変化しますが、摩擦係数計 NRF型は毛髪・フィラメント・テープなどの摩擦係数を経時的に測定することができます。

シャンプー・リンスなどによる櫛通り効果・持続時間などの測定に是非ご利用ください。



【測定原理】

プーリの両端に等しい荷重を与えた試料をかけ、プーリを回転させて摩擦係数による張力の変化を測定し、データ処理により摩擦係数を測定。毛髪などウロコのあるサンプルでも、回転方向を切り替えることで簡単に測定でき、また、測定プログラムにより個人差をなくすことで再現性のあるデータが得られます。

【標準仕様】

- ・標準プーリ：硬質アルミ製、バフ研磨仕上げ(φ30mm)
 - ・荷重範囲：1～60gr
 - ・プーリ回転数：1～300rpm(標準)
 - ・設置環境：0～40℃、湿度20～80%(結露しないこと)
 - ・総合精度：±2%以内
 - ・電源：AC100V ±10%、1.5KVA
 - ・本体外形寸法：W290×D490×H290mm
 - ・使用PC：USBポートが使用できるWindowsPC
- その他については、お問い合わせください。

【オプション】

- ・湿式測定：プーリに液供給/プーリを浸漬
- ・特殊プーリ：目的に応じて対応
- ・特殊ジオメトリ：毛髪/毛髪用など
- ・簡易型(単能機)も出来ます

詳細は、お問い合わせください。

【その他営業品目】●ビスコメーターNRM型/●L-A形粘度計/●各種材料による精密部品・治具の製作/●測定器の設計試作

資料請求先

レオロジー機器
営業担当 大野 宏策

〒275-0001
千葉県習志野市東習志野 2-18-44-805
E-mail:kousaku_ohno@outlook.jp
TEL.(ケイタイ)090-7833-5653



宇宙戦略基金 第二期開始

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、2024年度より宇宙戦略基金の公募・採択・技術開発マネジメントを開始しております。

2024年度、「宇宙戦略基金 実施方針」に従い実施した第一期の技術開発テーマの公募には民間・大学等からの数多くのご提案をいただき、先般、全ての採択を終えました。

2025年度の第二期の技術開発テーマでは、宇宙分野のすそ野を広げるべく、より一層、これまで宇宙分野での実績の少なかった方々からのご提案を期待しており、現在、JAXAにおいて公募に向けた準備を進めております。

また、このうち、特に、文部科学省の「分野共通」にあたる以下の技術開発テーマについては、民間・大学等の皆さまからのボトムアップ型での幅広い提案を募ることとしています。

「分野共通」技術開発テーマ

SX-CRANE (SX-Center of Research AND Engineering)

大学等の研究者を対象に、当該研究者等を中心とした革新的な研究開発を中長期的に支援し、国際競争力のある拠点としての発展を目指す枠組み（シリーズ）。

（技術開発テーマ名）

SX研究開発拠点（第一期テーマ：5件を採択済）

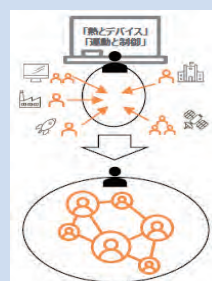
宇宙転用・新産業シーズ創出拠点（第二期テーマ：8月上旬公募開始予定）

SX-ARK (SX-Advanced Research Kick-starter)

民間・大学等を対象に、宇宙開発利用にまつわる特定の領域設定の下、革新的なアイデアや多様な要素技術に関する初期段階の開発・実証を短期的に支援しつつ、領域内でのネットワーキングを推進することで、事業構想への発展や我が国の技術基盤の底上げを目指す枠組み（シリーズ）。

（技術開発テーマ名）

SX中核領域発展研究（第二期テーマ：9月中旬公募開始予定）



上記に示したSX-CRANEの「宇宙転用・新産業シーズ創出拠点」及びSX-ARKの「SX中核領域発展研究」については、JAXAのHPを通じて、質問受付の機会や説明会等の情報を準備出来次第、順次発信していく予定です。

様々な研究者の方に応募をご検討いただき、斬新なアイデアによる革新的な技術シーズの獲得に挑戦する提案が多数寄せられることを期待しております。

宇宙戦略基金
全体の情報はこちら



SX-CRANE、SX-ARK
の情報はこちら



問い合わせ先

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙戦略基金事業部

E-mail : SSF-contact*.*@jaxa.jp

*.*を@に変更して連絡してください。

その他宇宙戦略基金における新たな技術開発要素のアイデア等については以下リンク先よりご提案ください。

<https://aerospacebiz.jaxa.jp/contact/form/>

NETZSCH

ネッチ・ジャパン株式会社

熱分析・熱物性測定のリディングカンパニー THERMAL ANALYSIS

NETZSCH 社では、ポリマーおよび繊維の評価領域を拡大する製品群を有します。熱重量変化と成分分析の同時評価が可能なTG-GCMS および繊維配合液体サンプルの分散性評価が可能な回転型レオメーター、引張粘弾性測定が可能なDMA など枚挙にいとまがありません。ポリマーおよび繊維に対しては、結晶性の評価や射出成型の熱履歴再現測定に適用できる高速昇降温(～500℃/min) が可能なDSC、射出および押出成型時のせん断、伸長下での粘度を測定できるキャピラリーレオメーターにより高分子構造と繊維特性の解析を実現させることができます。



回転型レオメーター
Kinexus
Ultra+/Pro+/Lab+



示差走査熱量測定装置
DSC 300 Caliris®
Supreme & Select/Classic



同時熱分析装置
STA 509 Jupiter®

Proven Excellence.

ネッチ・ジャパン株式会社
営業本部・テクニカルサポートセンター
〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9-13
Tel: 045-453-1962 / Fax: 045-453-2248

大阪営業所
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-23-15 セントアーバンビル
Tel: 06-6308-5550 / Fax: 06-6308-5610



NETZSCH
公式HP



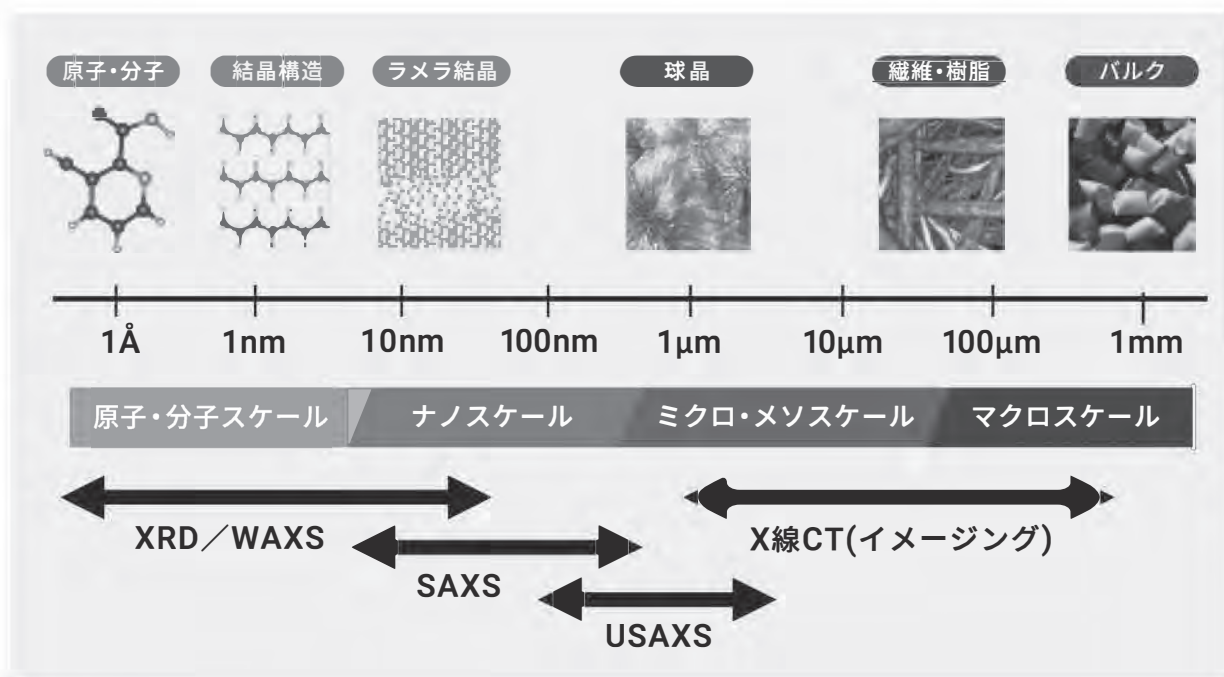
Instagram
@netzsch_japan



LinkedIn

高分子の視たいスケールを「見るチカラ」 リガクのX線構造評価装置

高分子の幅広いスケールに対応するX線構造評価装置



原子・分子スケール



SmartLab
(XRD)

DicifferX-WE
(WAXS)



結晶化度評価/配向度分布解析

ナノメートルスケール

Xeuss Pro
(SAXS, WAXS, USAXS, イメージング)



NANOPIX mini
(USAXS)

高次構造解析

ミクロ・マクロスケール



nano 3DX
(高分解能3D X線顕微鏡)

内部構造の非破壊観察

株式会社 **リガク** 【営業本部】TEL: 03-5312-7077
E-mail: info-gsm@rigaku.co.jp

【本社】〒196-8666 東京都昭島市松原町3-9-12 TEL: (042) 545-8111
【支店】東京、大阪 【営業所】東北、名古屋、九州

X線回折・蛍光X線分析・熱分析・発生ガス分析・
分光分析・X線イメージング・非破壊検査

各種分析装置の詳細はこちら▶

<https://www.rigaku.com>





JIS K 6950 / OECD 301F 適合

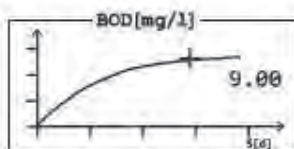
生分解性試験装置

O
x
i
T
o
p

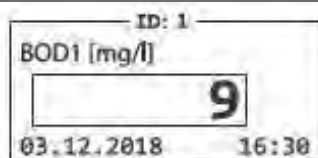
オ
キ
シ
ト
ッ
プ



- * 最大180日間までモニタリング可能
- * 最大100検体まで同時測定
- * 無線端末で測定値の経時変化を表示可能



経時変化のグラフ表示



測定値



製品詳細はこちら



水資源

水質測定器

人間

セントラル科学株式会社

【本社】TEL : 03-3812-9186 (代表)
FAX : 03-3814-7538

【大阪】TEL : 06-6392-1978 (代表)
FAX : 06-6392-1971

URL : <https://aqua-ckc.jp/>



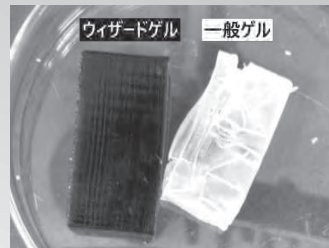
自己修復性

ゲル同士を接触させるだけで自己修復します。
応力緩和による凹み傷の回復も可能です。



高伸縮性・高靱性

引張や圧縮に対する高い強度があります。
降伏点を持たないため形状回復が可能です。



耐乾燥性

長期間の耐乾燥性を持ち、
数か月～年単位※で初期状態を維持できます。
※屋内、室温環境下に静置。当社内での評価。



乾かない！
自己修復・高靱性ポリマーゲル

3Dプリンティングできる！ 自己修復・高靱性エラストマー



自己修復性・高伸縮性・高靱性

切断面を接触させるだけで自己修復します。
引張や圧縮に対する高い強度があり、形状回復が可能です。



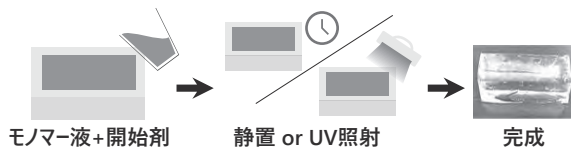
3Dプリンティング

波長405nmの光造形方式3Dプリンタ※を用いて造形することが可能です。
これまでの3Dプリンタ用樹脂にはない柔軟さ、伸縮性を兼ね備えています。
※武藤工業製ML-100にてEM-0630/EM-0685の造形実績あり。その他機器、条件等についてはお問合せください。

使用方法

モノマー液(液状)を硬化させることで成形できます。詳細はHPをご覧ください。

ウィザードゲル
WG



ウィザード
エラストマー
WE



基本物性（硬化後）

項目\製品	ウィザードゲル	ウィザードエラストマー	
	GM-0001	EM-0630	EM-0685
外観	透明	微黄色～黄色	
修復時間※1	24時間	24時間	
硬さ	CSC2-40	A-30	A-85
比重※2	1.25	1.0	1.1
引張強さ※3	240 kPa	350～500 kPa	2,500～3,000 kPa
伸び※3	900～1000%	700～900%	
耐乾燥性※4	6か月以上	-	

※1：経時で回復し、修復が完了する目安。 ※2：アルキメデス法、試験温度23℃。 ※3：オートグラフによる試験、7号ダンベル、温度23±2℃、湿度50±5%RH。 ※4：7月～翌年1月の実験室内温度環境。以後も乾燥せず推移中。

お気軽にお問合せください！

株式会社ユシロ

〒146-8510 東京都大田区千鳥2-34-16
<https://www.yushiro.co.jp/products/wizard>



製品ページ

WIZARD GEL WIZARD ELASTOMER

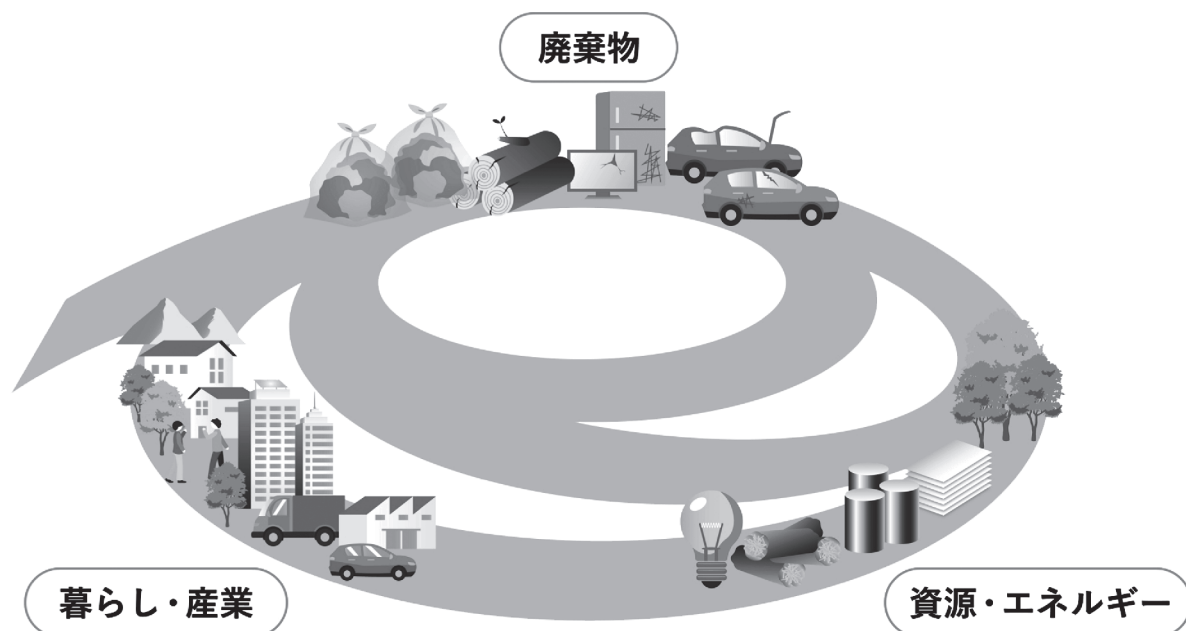


WIZARD.GEL



TRE GROUP

東京証券取引所プライム市場(9247)



環境を守るとは、未来を守ること。

わたしたちは、廃棄物を高いレベルで分別・選別し、
可能な限りの再資源化に取り組むことで、
サステナブルな社会の実現に貢献しています。

(株)タケエイは、2021年10月1日にリバーホールディングス(株)と経営統合し、TREホールディングス(株)を設立。
地球の環境保全に貢献するため、よりスピーディーかつ最適なソリューションを提供いたします。



■本 社 〒105-0011 東京都港区芝公園 2丁目4番1号
芝パークビル A-10階
TEL 03-6361-6830 FAX 03-6361-6835
URL <https://www.takeei.co.jp>



環境大臣認定
エコ・ファースト企業



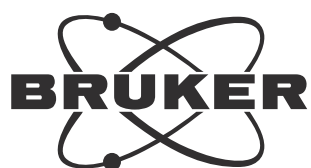
(株)タケエイのWebサイトへ

☆廃棄物処理・リサイクル

- (株)タケエイ
- (株)池田商店
- (株)ギプロ
- (株)グリーンアローズ関東
- (株)グリーンアローズ東北
- (株)タケエイメタル
- 東北交易(株)
- イコールゼロ(株)
- (株)タッグ
- (株)北陸環境サービス

- (株)信州タケエイ
- (株)門前クリーンパーク
- (株)タケエイエナジー&パーク
- メトレック(株)
- ☆再生可能エネルギー
- 市原グリーン電力(株)
- 循環資源(株)
- (株)津軽バイオマスエナジー
- (株)花巻バイオマスエナジー
- 花巻バイオチップ(株)
- (株)大仙バイオマスエナジー

- (株)タケエイグリーンリサイクル
- (株)田村バイオマスエナジー
- (株)タケエイ林業
- (株)タケエイでんき
- (株)津軽エネベジ
- (株)泉山林業
- ☆環境エンジニアリング
- 富士車輛(株)
- ☆環境コンサルティング
- 環境保全(株)
- (株)アースアブレイザル



NEW
ARRIVAL

新製品
原子間力顕微鏡

Dimension Nexus

大型試料対応 高性能卓上AFM



ナノ赤外分光分析

Dimension IconIR

10 nm 空間分解能の赤外分光分析



ナノインデントー

Hysitron TI Premier II

最先端のニーズに対応する柔軟性を備えた
ナノ力学試験機



ブルカージャパン株式会社ナノ表面計測事業部

東京都中央区新川 1-4-1 tel: 03-3523-6361 fax: 03- 3523-6364

email: info-nano.bns.jp@bruker.com

Innovation with Integrity



顕微鏡用冷却加熱ステージ

プログラマー 1 台で $-190^{\circ}\text{C} \sim 600^{\circ}\text{C}$ の温度範囲をカバーできます。

昇降温速度も $0.01 \sim 150^{\circ}\text{C}/\text{min}$ の間で自在に温度コントロールを実現。

試料室を大気中・不活性ガス雰囲気はもちろん、真空対応の製品もあります。

冷却加熱に加えて、延伸やせん断ができる製品も取り揃えています。

『光学顕微鏡以外の用途でお使いですか？』

ラマン顕微鏡、赤外顕微鏡や光干渉、小角散乱、垂直設置に対応できる製品もあります。

抜群の温度安定性と操作性のリンクカム顕微鏡用冷却加熱ステージをご体験ください。



$-190^{\circ}\text{C} \sim 600^{\circ}\text{C}$



冷却加熱ステージ

10002L

昇降温速度： $0.01 \sim 150^{\circ}\text{C}/\text{min}$

試料サイズ： $\phi 16\text{mm} \times t 1.5\text{mm}$

$-100^{\circ}\text{C} \sim 420^{\circ}\text{C}$



大型試料冷却加熱ステージ

10083L

昇降温速度： $0.01 \sim 30^{\circ}\text{C}/\text{min}$

試料サイズ： $42 \times 53 \times t 3\text{mm}$

$-100^{\circ}\text{C} \sim 350^{\circ}\text{C}$



延伸ステージ

10073L

ロードセル：200N

試料サイズ： $7 \times 26 \times t 2\text{mm}$

$-50^{\circ}\text{C} \sim 450^{\circ}\text{C}$



せん断流動観察ステージ

CSS450WC

せん断速度： $0.003 \sim 15000\text{s}^{-1}$

試料サイズ： $\phi 30\text{mm} \times t 2.5\text{mm}$

ジャパンハイテック株式会社®

■本 社
■新東京営業所(ショールーム)

〒813-0001 福岡市東区唐原 7-15-81

〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-2-405

TEL (092) 674-3088 FAX (092) 674-3089

TEL (043) 226-3012 FAX (043) 226-3013



HPにて観察例公開中！ ジャパンハイテック

検索

URL <https://www.jht.co.jp> Email sales@jht.co.jp

Brewed Protein™

designed by Spiber Inc.

<https://spiber.inc/en/>



Explore proteins for the better

Brewed Protein™ materials are fibers, films, and other types of materials that are manufactured through fermentation (brewing) of plant-based ingredients. Our Brewed Protein™ fibers are currently the only Protein fibers, the ISO standard, made through microbial fermentation process available on an industrial scale. This new class of material is created using Spiber's proprietary technology platform that enables customized design and molecular engineering of nature-inspired protein polymers.

Development, production, and evolution



1. Learn

Natural materials and genetic information are collected, analyzed, and put into a database



2. Design

DNA and amino acids sequences are designed and synthesized to achieve desired characteristics and functionality



3. Brew

Brewed Protein™ polymers are produced by specially-designed microbes



4. Process

Brewed Protein™ polymer is extracted and purified before being processed into various materials such as fiber, resin, and film

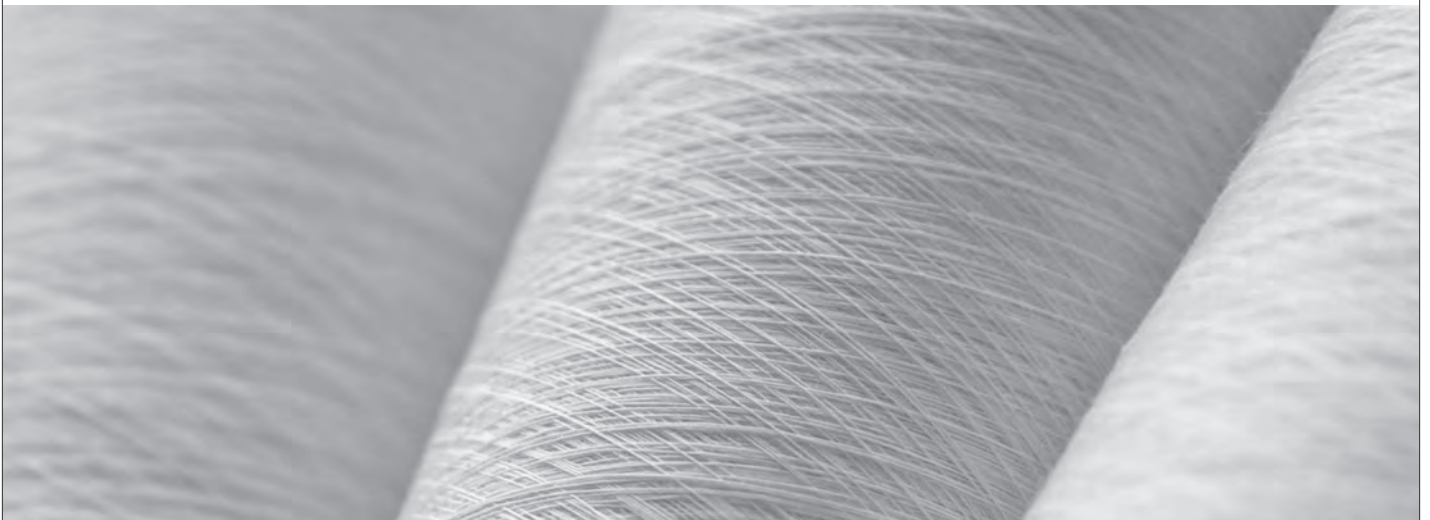


5. Evolve

Data gathered throughout each step informs subsequent development cycles, speeding up the evolution of our materials and processes

ISO2076 "Protein Fiber"

In 2021, the International Organization for Standardization (ISO) issued a revision to the definition of "protein fibre" in ISO2076. With this revision, the term "protein fibre" now includes not only naturally-derived protein, but synthetically-produced protein as well. Furthermore, the minimum protein content required for fibres to meet this definition has now been set at 80%. This standardization marks the first international recognition of synthetic structural protein materials and will serve to increase global awareness and societal confidence in Brewed Protein™ materials going forward.

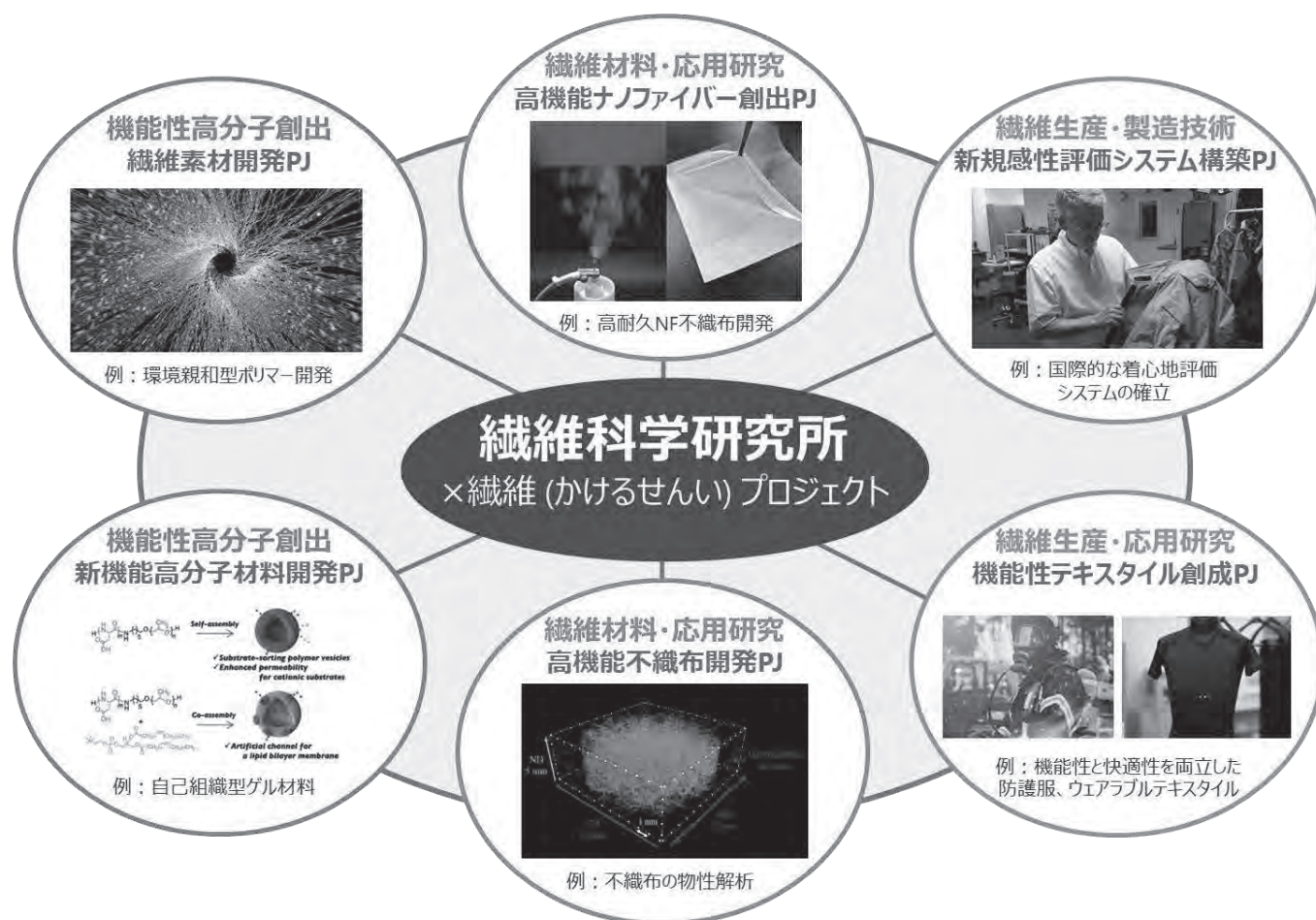




信州大学社会実装研究クラスター 繊維科学研究所



繊維科学研究所は、繊維の伝統技術と先端科学技術を融合させた「ファイバー工学」を多様な学際分野に展開し、その成果を幅広い産業分野における新しいものづくりと価値の創出に結びつけるとともに、グローバル感覚を身につけ次世代産業を創生する高度な技術者及び研究者の育成、分野横断的に新たな学術研究の創出と展開を目指した共同利用・共同研究拠点の実施を目的としています。



信州大学社会実装研究クラスター
繊維科学研究所

〒386-8567 長野県上田市常田3-15-1
E-mail ifes_jimu@shinshu-u.ac.jp TEL 0268-21-5572
URL <https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/ifes/>

試験槽、露点発生装置、温度制御装置
計測制御ソフトウェアをトータルで構築します。

我々は
湿度のプロフェッショナルです。



世界基準の
「二温度二圧力法」を
国内で唯一実現



世界初！？

FTIR
引張試験器
NMR MOUSE
マイクロスコープ
コンクリート片
電子基板



マイクロ・イクイップメント株式会社

<https://me-fc.co.jp/> Tel:03-5354-8601 Fax: 03-5354-8602

【事務所・工場】

【サテライトオフィス】

〒151-0071 東京都渋谷区本町6-1-17 〒563-0031 大阪府池田市天神1-8-12-205





繊維学会誌

2025年7月 第81巻 第7号 通巻 第952号

目 次

時 評	これからの「モノづくり」と「コトづくり」を考える	増田 正人 P-277
-----	--------------------------	-------------

特 集	〈ISF2024 Plenary Speakers〉	
	Textile Based Energy Harvesting	
	Aristeidis Repoulas and Savvas Vassiliadis	P-278
	Review of Environmental Adaptive and Eco-Friendly	
	Concepts of Geosynthetics for Sustainable Application	
	Han Yong, Jeon	P-290
	Processing Biopolymer Nanofibers and Nanoyarns	
	through Electrospinning	
	Caroline L. Schauer	P-298
	Bicomponent Melt Spinning	
	-Fundamentals and Applications-	
	Takeshi Kikutani	P-305

連 載	〈繊維 街歩き(13)〉	
	天鵞絨美術館訪問記	
	小寺 芳伸	P-315

訃 報	宮田清藏先生のご逝去を悼む	
	荻野 賢司	P-323



Journal of The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 81, No. 7 (July 2025)

Contents

Foreword	Rethinking the Future of “Manufacturing” and “Value Creation”	Masato MASUDA	P-277
-----------------	---	---------------	-------

Special Issue on ISF2024 Plenary Speakers			
Textile Based Energy Harvesting	Aristeidis REPOULIAS and Savvas VASSILIADIS		P-278
Review of Environmental Adaptive and Eco-Friendly Concepts of Geosynthetics for Sustainable Application	Han Yong, JEON		P-290
Processing Biopolymer Nanofibers and Nanoyarns through Electrospinning	Caroline L. SCHAUER		P-298
Bicomponent Melt Spinning -Fundamentals and Applications-	Takeshi KIKUTANI		P-305

Series on Culture and Technology of Textile (13)			
Report on Visit to the Velvet Museum	Yoshinobu KOTERA		P-315

Obituary		Kenji OGINO	P-323
-----------------	--	-------------	-------



Journal of Fiber Science and Technology (JFST)

Vol. 81, No. 7 (July 2025)

Technical Paper / 技術論文

- ❖ Highly Compressible and Ultra-Flexible Micro-Nano Mullite Fiber Sponge
Prepared by Electrostatic Solution Blow Spinning for High Temperature Filtration

Gaohui Fan, Wanli Yue, Pengqi Shi, Diedie Wei, Wei Cui, Dandan Chen,
Weiguang Yan, Mengru Lin, Hao Guo, Xuling Jin, Rongwu Wang,
Xiaohong Qin, and Jianxin He

88

Transaction / 一般論文

- ❖ Nanofiber Fabrication of Alginate Ion Complexes with Different Cationic Surfactants

Sarah Sultan Awad Sultan, Diaa Hamed Abdelshafy Abdelsalam,
Yoshito Asai, Huaizhong Xu, and Takashi Aoki

100

繊維学会論文誌 “Journal of Fiber Science and Technology (JFST)”

毎月の目次と抄録を繊維学会誌に掲載して参ります。本文はJ-Stageでご覧になれます。繊維学会のホームページ「学会誌・出版」から、また直接下記のアドレスにアクセスしてください。

英語: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst>

日本語: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/fiberst-char/ja/>

JFST はどなたでも閲覧は自由で認証の必要はありません。但し、著作権は繊維学会に帰属されます。

Journal of Fiber Science and Technology 編集委員

Journal of Fiber Science and Technology, Editorial Board

編集委員長
Editor in Chief

武野明義(岐阜大学)
Akiyoshi Takeno

編集副委員長
Vice-Editor

鬘谷要(和洋女子大学大学院)
Kaname Katsuraya

編集委員
Associate
Editors

青木隆史(京都工芸繊維大学大学院)
Takashi Aoki

上高原浩(京都大学大学院)
Hiroshi Kamitakahara

金晃屋(信州大学)
KyoungOk Kim

久保野敦史(静岡大学)
Atsushi Kubono

宮瑾(山形大学)
Gong Jin

澤渡千枝(武庫川女子大学)
Chie Sawatari

朱春紅(信州大学)
Chunhong Zhu

登阪雅聡(福井大学)
Masatoshi Tosaka

内藤圭史(岐阜大学)
Keishi Naito

花田美和子(神戸松蔭大学)
Miwako Hanada

久田研次(福井大学大学院)
Kenji Hisada

山本勝宏(名古屋工業大学)
Katsuhiro Yamamoto

Highly Compressible and Ultra-Flexible Micro-Nano Mullite Fiber Sponge Prepared by Electrostatic Solution Blow Spinning for High Temperature Filtration

Gaohui Fan^{*1}, Wanli Yue^{*3}, Pengqi Shi^{*1}, Diedie Wei^{*1}, Wei Cui^{*1}, Dandan Chen^{*1}, Weiguang Yan^{*1}, Mengru Lin^{*1,2}, Hao Guo^{*3}, Xuling Jin^{*5}, Rongwu Wang^{*1}, Xiaohong Qin^{*4}, and Jianxin He^{*1}

^{*1} International Joint Laboratory of New Textile Materials and Textiles of Henan Province, Zhongyuan University of Technology, Zhengzhou 450007, People's Republic of China

^{*2} Binzhou Institute of Technology, Weiqiao-UCAS Science and Technology Park, Binzhou 256606, Shandong Province, China

^{*3} Ministry of Education Key Laboratory of Advanced Textile Composite Materials, Institute of Composite Materials, Tiangong University, Tianjin 300387, P. R. China

^{*4} Donghua University, Shanghai Province 200051, China

^{*5} Henan Garment Research Institute Co., LTD, No.70 Market Street, Zhongyuan District, Zhengzhou 450007, People's Republic of China

Particulate matter (PM) pollution from industrial dust and automobile exhaust emissions has caused serious harm to the environment, becoming a global public safety concern. However, conventional filter materials have problems such as high brittleness at high temperatures, so it is of great significance to develop a filter material that can efficiently intercept PM at high temperatures. We prepared mullite fiber sponges with high compressibility, ultraflexibility, and excellent high-temperature filtration performance by electrostatic solution blow spinning using two-component co-spinners PVA and PEO as polymer templates. What's more, mullite fiber sponge has excellent thermal stability at temperatures ranging from -196 to 1100 °C. In ambient conditions, the filtration efficiency of mullite fiber sponge was 99.67%, with a resistance of 240 Pa, and filtration efficiency of approximately 97% was achieved at 300 °C. The nanofiber sponge demonstrated outstanding filtration performance for automobile exhaust (PM0.3>97%), indicating significant potential for applications in high-temperature filtration.. *J. Fiber Sci. Technol.*, **81(7)**, 88-99 (2025) doi 10.2115/fiberst.2025-0012 ©2025 The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Nanofiber Fabrication of Alginate Ion Complexes with Different Cationic Surfactants

Sarah Sultan Awad Sultan^{*1}, Daa Hamed Abdelshafy Abdelsalam^{*1}, Yoshito Asai^{*1}, Huaizhong Xu^{*2}, and Takashi Aoki^{*2}

^{*1} Department of Biobased Materials Science, Kyoto Institute of Technology, Matsugasaki, Sakyo, Kyoto 606-8585, Japan

^{*2} Faculty of Fiber Science and Engineering, Kyoto Institute of Technology, Matsugasaki, Sakyo, Kyoto 606-8585, Japan

Highly purified alginate electrospun nanofibers have not yet been produced; thus, the fabrication of alginate into nanofibers is a great challenge. The OH groups of the repeating units in the polysaccharides act not only as interaction sites with water molecules but also in the formation of hydrogen-bonded complexes between them. The latter contributes to gelation and increases viscosity at low concentrations and must be one of the factors that make fiber difficult to produce. We have attempted a novel approach to obtain nanofibers by suppressing hydrogen bonding between alginate chains and their gelation. An ion complex with anionic alginate and a cationic surfactant could be considered to govern hydrogen-bonded aggregation, yielding nanofibers. This paper consists of two topics: first, the solution properties of the ion complex are discussed from the rheology of the solution and the molecular structure of the soluble ion complex. The other is the study of the structure and properties of nanofibers. It has been reported that ion complexes can be used to prepare alginate nanofibers. *J. Fiber Sci. Technol.*, **81(7)**, 100-109 (2025) doi 10.2115/fiberst.2025-0010 ©2025 The Society of Fiber Science and Technology, Japan

会告 2025

The Society of Fiber Science and Technology, Japan

Vol. 81, No. 7 (July 2025)

開催年月日	講演会・討論会等開催名(開催地)	掲載頁
2025. 7. 18(金)	デジタルテキスタイルアカデミー基礎編 (Zoom ウェビナーによるオンライン開催)	A17
7. 31(木) 8. 1(金)	2025 年 繊維学会基礎講座(オンライン開催 (Zoom システム利用))	A3
8. 27(水)	第 61 回「感性研究フォーラム」講演会 年間テーマ『感性とデジタル』 (Zoom を利用してのリモート講演)	A8
8. 27(水) 28(木)	第 38 回におい・かおり環境学会(福岡市・福岡女子大学)	A17
9. 4(木) 5(金)	2025 年度 第 53 回繊維学会 夏季セミナー～繊維科学の潮流と新展開～ (大分県・別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ))	A4
9. 6(土) 7(日)	令和 7 年度化学系学協会東北大会(山形県・山形大学米沢キャンパス)	A10
9. 11(木) 12(金)	第 61 回炭素材料夏季セミナー(群馬県・草津温泉ホテルヴィレッジ)	A17
10. 8(水) ～10(金)	第 46 回日本熱物性シンポジウム (一般講演・特別講演・総会:アバンセ(佐賀市・佐賀県立男女共同参画センター・生涯学習センター)、意見交換会:佐賀市・ホテルグランデはがくれ)	A17
10. 27(月) 28(火)	2025 年 繊維学会秋季研究発表会(山形市・山形テルサ)	A5
11. 13(木) 14(金)	第 44 回無機高分子研究討論会(京都市・京都工芸繊維大学 60 周年記念館 2 階)	A17
11. 15(土)	2025 年 高校生研究発表会(ハイブリッド開催 対面会場:東京都・東京農工大学 東小金井キャンパス、オンライン会場:Zoom システム利用)	A7
2026. 9. 29(火) ～10. 1(木)	The 27th IFATCC Congress 2026(スペイン・バルセロナ)	A17
	繊維学会 臨時理事会議事録、繊維学会 第 714 回 理事会議事録	A11
	繊維学会誌広告掲載募集要領・広告掲載申込書	2010 年 6 月号
	繊維学会定款(2012 年 4 月 1 日改訂)	2012 年 3 月号
	Individual Membership Application Form	2012 年12月号
	繊維学会誌報文投稿規定(2012 年 1 月 1 日改訂)	2014 年 1 月号
	訂正・変更届用紙	2014 年 3 月号

【会員計報のお知らせ】

以下の正会員の計報に接しました。

ここに謹んで哀悼の意を表すとともに、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

壁矢久良(元東京農工大学)、堀照夫(福井大学)、潮田ひとみ(東京家政大学)、佐々木園(京都工芸繊維大学)

「繊維学会誌」編集委員

編集委員長 内田 哲也(岡山大)

編集副委員長 髪谷 要(和洋女子大院) 出口 潤子(旭化成(株))

編集委員 大島 直久((一社)日本染色協会) 奥家 智裕(帝人(株)) 鹿野 秀和(東レ(株)) 上高原 浩(京大)
金 慶孝(信州大) 榊原 圭太(産総研) 澤田 和也(大阪成蹊短期大) 朱 春紅(信州大)
杉浦 和明(京都市産業技術研究所) 高崎 緑(横浜国立大院) 谷中 輝之(東洋紡(株)) 長嶋 直子(金城学院大)
中野 恵之(西脇市郷土資料館) 西田 幸次(山形大) 檜垣 勇次(大分大) 廣垣 和正(福井大)
松野 寿生(山形大)

顧問 浦川 宏(京都工芸繊維大名誉教授) 土田 亮(岐阜大学名誉) 村瀬 浩貴(共立女子大) 小寺 芳伸(元 三菱ケミカル(株))

2025 年（令和 7 年）繊維学会行事予定

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所
2025 年 繊維学会基礎講座	2025 年 7 月 31 日(木)～8 月 1 日(金)	オンライン開催 (Zoom システム利用)
2025 年 第 53 回繊維学会 夏季セミナー	2025 年 9 月 4 日(木)～5 日(金)	別府国際コンベンションセンター (ビーコンプラザ)
2025 年 繊維学会秋季研究発表会	2025 年 10 月 27 日(月)～28 日(火)	山形テルサ
2025 年 高校生研究発表会発表会	2025 年 11 月 15 日(土)	東京農工大学 東小金井キャンパス

繊維学会の正会員様へのお知らせ

繊維学会正会員様の会員資格は毎年自動継続となり、別段のお手続きは必要ございません。

異動、退職、卒業などによりご登録情報に変更がございましたら、お早めにご連絡を頂きますよう、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

＊学会誌の送付先の変更

住所変更(新旧の住所)、担当者変更(新旧の担当者名)、時期など

＊退会をご希望の際は、メールまたは FAX に必要事項

会員番号、氏名、退会希望日、連絡先などを記入し、下記までご連絡をお願いします。

問合せ先 一般社団法人繊維学会 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208

TEL : 03-3441-5627 FAX : 03-3441-3260 E-mail : office@fiber.or.jp

繊維学会論文誌 (JFST)

Journal of Fiber Science and Technology

- JFST は、繊維科学を中心とした幅広い専門分野をカバーする査読付きの英文・和文のハイブリッドジャーナルです。
- JFST は、Web of Science Core Collection をはじめ Journal Citation Report , Scopus 等の各種データベースに収録され、永く Impact Factor を維持し、国際的な評価を得ている日本の繊維科学をリードする学術論文誌です。
- JFST は、読者へのサーキュレーションの良いオープンアクセス誌としていますが、掲載内容の二次利用については、著作権保護の立場から一般社団法人 著作権協会に著作権管理および利用許諾業務を委託しています。

複写等をご希望される方へ

繊維学会では、複写複製、転載複製及び AI 利用に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。日本を除く国・地域で当該利用をご希望の方は、学術著作権協会ホームページ(<http://www.jaacc.org/en/>)にて申請先をご確認ください。

The Society of Fiber Science and Technology, JAPAN authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JAC) to license our reproduction rights, reuse rights and AI ML rights of copyrighted works.

If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JAC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations to request permission.

2025 年 繊維学会基礎講座

繊維学会では、新たに繊維に携わる社会人や学生を対象に「繊維基礎講座」を毎年開催しています。

繊維基礎講座では、繊維をキーワードとして活躍されている研究者・専門家に繊維の基礎的な知識から、今日の繊維産業と繊維科学研究の最新動向をご紹介します。繊維科学研究、技術の基礎から最新動向までを学ぶとともに、繊維を中心とした科学技術と産業の将来を考える機会としていただければ幸いです。

主催：一般社団法人 繊維学会

日時：2025 年 7 月 31 日(木)～8 月 1 日(金)

会場：オンライン開催 (Zoom システム利用)

定員：300 名

プログラム：

1 日目

- | | | |
|---------------|--|--------------|
| 9:30 | 諸注意等 | |
| 9:40 | はじめに(企画委員会) | |
| 10:00 | 1. 合成繊維(新規ポリマーの繊維化検討) | (信州大)宝田 亘 |
| 11:05 | 2. 紡糸・延伸(繊維構造形成と繊維物性) | (信州大)大越 豊 |
| 12:05 ~ 13:10 | 昼休み | |
| 13:10 | 3. 天然繊維(天然セルロール繊維の基礎と応用) | (東京農工大)小瀬 亮太 |
| 14:15 | 4. 高機能繊維(強誘電エレクトレット超極細繊維膜) | (京都工繊大)石井 佑弥 |
| 15:20 | 5. 炭素繊維複合材料(炭素循環社会への貢献に向けた炭素繊維強化複合材料の設計) | (岐阜大)入澤 寿平 |
| 16:20 | パネルディスカッション※ | |
| 17:00 | 1 日目終了 | |

2 日目

- | | | |
|-------------|--|------------------------|
| 9:40 | 6. 染色(染色のこれまでとこれから) | (金城学院大)長嶋 直子 |
| 10:45 | 7. 被服科学(快適被服を科学する) | (横国大)薩本 弥生 |
| 11:45~13:00 | 昼休み | |
| 13:00 | 8. 電界紡糸(ナノファイバー作製の基礎と機能設計) | (東京科学大学)松本 英俊 |
| 14:05 | 9. リサイクル(物理劣化・物理再生理論に基づいた高度マテリアルリサイクル) | (福岡大)八尾 滋
(山形大)松葉 豪 |
| 15:10 | 10. 放射光構造解析(放射光を用いた繊維材料の精密解析) | |
| 16:10 | パネルディスカッション※ | |
| 16:50 | おわりに | |
| 17:00 | 講座終了 | |

※各日の最後に、講演者を含む参加者の皆さんの交流の場としてパネルディスカッションを予定。

○参加者で希望される方には期間限定で見逃し配信を行う予定です。

(諸般の事情により、ご覧いただけない講演がある場合がございます。)

参加登録期間：5 月 19 日(月)～7 月 18 日(金)

参加登録費(税込)：企業会員(維持・賛助会員)24,000 円、企業非会員 29,000 円、大学・官公庁会員 17,000 円、大学・官公庁非会員 22,000 円、大学・官公庁団体(15 名まで) 25,000 円、企業団体(維持・賛助会員のみ、5 名以内)48,000 円、学生会員 3,000 円、学生非会員 5,000 円

* 会員・非会員に関わらず、広く繊維学会を知っていただく試みとして参加登録費を設定しています。非会員の方におかれましては、この機会にぜひ学会への入会をご検討ください。

<https://www.fiber.or.jp/jpn/join/join.htm>

* 大学・官公庁団体でのお申込みには、グループ内に最低 1 名の繊維学会員を含む必要があります。

* 団体でのお申込の際は、個別にウェブの参加登録をお願いいたします。

参加登録ページの振込方法欄は、団体の場合はチェック不要です。

全員の登録手続きがお済みになりましたら、グループ代表者は事務局へご連絡ください。

ご請求書をお送りいたします。

* 参加登録ページでは、会員区分で会員を選択し、会員番号枠内に「団体申込」と記入してください。

参加費振込：【振込口座】三井住友銀行 目黒支店 普通口座 0922240 (加入者名)一般社団法人繊維学会

* 振込手数料は各自でご負担ください。

** 参加登録費は、7 月 18 日(金)までにご入金くださいますようお願いいたします。

入金確認ができた方へのみ講座開催 1 週間前を目処に「参加証」(会議 URL 記載)をお送りいたします。

* 入金の際は、振込人名に「参加登録番号」及び、「お名前」を入力ください。

入金者が不明な場合参加証の送付が遅れる場合がございます。

締日の関係から期日までにご入金が多い場合は、事務局へご相談ください。

問合せ先：〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208 (一社)繊維学会 E-mail: office@fiber.or.jp

2025 年度 第 53 回繊維学会 夏季セミナー ～繊維科学の潮流と新展開～

趣 旨：

本年度の第 53 回繊維学会夏季セミナーは西部支部が担当し、9 月 4 日(木)～5 日(金)の 2 日間に亘り「繊維科学の潮流と新展開」と題して大分県別府市で開催します。2 件の特別講演、12 件の招待講演等を予定し、繊維科学の現状と最先端の研究・開発についてご講演頂きます。

持続可能性、サステイナブル、未来志向などをテーマにした社会実装を主眼とする研究・開発に関する講演を企画しました。複数の繊維を組み合わせで作られるインク吸蔵体としての産業用繊維製品、社会実装を考慮した高分子・繊維材料の先端研究、繊維の医療技術への新展開などについて、未来を見据えた内容を講演いただき、議論したいと思います。

繊維関連学会および繊維業界の持続可能な活動構築に向けて議論が深化するとともに、繊維研究の新展開への糸口となるセミナーになることを祈念し、皆様のご来場をお待ちしています。また、学生の研究成果を主体とするポスター発表および企業展示も行います。これらを通じて、活発な意見交換および交流の場となることを期待しています。

主 催：(一社)繊維学会

開催期間：2025 年 9 月 4 日(木)～5 日(金)

開催方式：対面

会 場：別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)

住所：大分県別府市山の手町 12-1

会場 Web サイト：<https://www.b-conplaza.jp/>

総合講演：「異分野・産学連携によるポリマーブラシ技術の新展開—イノベーション創発を目指して—」

繊維学会 会長(京都大学化学研究所 教授) 辻井 敬亘

特別講演 1：「筆記具用部品(中綿)における産業用繊維の活用」

(株)ユニポイント 社長 佐々木隆人

特別講演 2：「高分子界面の学理構築と社会実装への展開」

九州大学大学院 主幹教授 田中 敬二

企業展示：粗品がもらえるスタンプラリーを実施予定！

参加費(税込)：

	大学・官公庁	企 業	学 生
会員	25,000 円	37,000 円	8,000 円
一般(非会員)	28,000 円	40,000 円	10,000 円

当日参加の場合は一般料金となりますので、お早目のご登録をお願いいたします。

参加登録締切：2025 年 8 月 29 日(金)

※参加者は、参加登録締切までに登録のうえ、必ず参加登録料の振込を完了してください。

ポスター発表：学生主体のポスター発表を募集します

※ポスター発表を希望される場合、発表登録に加え、参加登録も必要です。お忘れ無くご登録手続きをお願いします。

※ポスター賞を用意しますので、奮ってご参加ください！

発表申込・予稿原稿投稿：※発表者は必ず、登録期間中に参加登録手続きをしてください。

ポスター発表申込：2025 年 7 月 31 日(木)

予稿原稿提出締切：2025 年 8 月 12 日(火)

送金方法：登録者は、下記のいずれかの方法にて事前登録締切期限までに参加登録料をご送金ください。振込手数料は各自でご負担ください。

(1)現金書留：〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-9-208 繊維学会事務局 宛

(2)銀行振込：三菱 UFJ 銀行 目黒駅前支店 普通口座 4287837 (加入者名)一般社団法人繊維学会

(注)入金の際は、「参加登録番号」と「お名前」を打電ください。

懇親会：日時：2025 年 9 月 4 日(木)

会費：一般：10,000 円、学生：3,000 円

※懇親会への参加申込みにつきましては、参加登録いただきました皆様へのみ、詳細のご案内をお送りいたします。

※懇親会費は、参加登録費と同様の銀行口座へのお振込み、または現金書留にてお支払いください。

実行委員長：氏家 誠司(大分大)

実行委員会：井原 栄治(愛媛大学)、宇都 卓也(宮崎大学)、門川 淳一(鹿児島大学)、桑原 稔(熊本大学)、
巽 大輔(九州大学)、檜垣 勇次(大分大学)、成田 貴行(佐賀大学)、秀野 晃大(愛媛大学)、
毛利 恵美子(九州工業大学)、盛満 裕真(九州大学)、吉見 剛司(大分大学)

2025 年 繊維学会秋季研究発表会

主 催：(一社)繊維学会

開催期間：2025 年 10 月 27 日(月)～28 日(火)

開催方式：対面開催

会 場：山形テルサ(〒990-0828 山形県山形市双葉町 1-2-3)

研究発表：

1. 繊維・高分子材料の創製
(1a 新素材合成、1b 素材変換・化学修飾、1c 無機素材・有機無機複合素材)
2. 繊維・高分子材料の機能
(2a オプティクス・フォトンクス、2b エレクトロニクス、2c イオニクス、2d 機能膜の基礎と応用、2e 接着・界面／表面機能、2f 耐熱性・難燃性)
3. 繊維・高分子材料の物理
(3a 結晶・非晶・高次構造、3b 繊維・フィルムの構造と物性複合材料の構造と物性、3c 繊維構造解析手法の新展開、3d その他)
4. 成形・加工・紡糸
(4a 繊維・フィルム、4b 不織布・多孔体、4c 複合材料、4d 3D プリンタ)
5. テキスタイルサイエンス
(5a 紡織・テキスタイル、5b 消費科学、5c 感性計測・評価テキスタイルサイエンス)
6. 天然繊維・生体高分子
(6a 紙・パルプ、6b 天然材料、6c 生分解性材料、6d バイオマス素材)
7. ソフトマテリアル
(7a 液晶、7b コロイド・ラテックス、7c ゲル・エラストマー、7d ブレンド・マイクロ相分離)
8. バイオ・メディカルマテリアル【医用材料研究委員会 合同セッション】
9. 【若手産官学交流セッション】依頼講演のみ

研究発表募集部門：次の 2 部門で発表を募集します。

部門 A

A1：口頭発表

[口頭発表] (発表 15 分、質疑応答 4 分、交代 1 分)

部門 P[ポスターセッション]

P1：一般発表、P2：優秀ポスター発表賞応募者

優秀ポスター発表賞応募資格と注意事項：

- ・ P2 は優秀ポスター発表賞の審査対象になります。
- ・ P2 に応募いただける方は、繊維学会学生会員のみとなります。
- ・ 優秀ポスター発表賞の表彰は、会期中におこないます。

発表申込：2025 年 7 月 1 日(火)～2025 年 9 月 12 日(金)

予稿原稿受付：2025 年 9 月 22 日(月)～2025 年 10 月 3 日(金)

予稿集発行日：2025 年 10 月 20 日(月)

第 61 回染色化学討論会：主催：(一社)繊維学会 染色研究委員会

日時、会場、懇親会は「秋季研究発表会」と同一です。

- ・ポスター発表は染色化学討論会と秋季研究発表会の合同で行います。
 - ・染色化学討論会に参加ご希望の方は、繊維学会秋季研究発表会へご登録ください。
- 詳細は染色化学討論会のホームページをご覧ください。

参加登録費：

	正会員及び、維持・賛助会員	学生会員	非会員(一般)	非会員(学生)
事前登録	11,000 円	4,000 円	20,900 円	7,700 円
登録期間以降または当日登録	13,000 円	6,000 円	23,100 円	9,900 円

正会員・学生会員(不課税)、一般非会員・学生非会員(消費税込)

- * 事前参加登録及び、参加登録費をお支払いいただきました方へは、会期一週間前を目途にメールにて「参加証」をお送りします。
- * 学生非会員の方へ：小島盛男様からのご寄付を貴重な財源として“令和 10 年プロジェクト”を推進しています。プロジェクトの一環として、若手会員増強プログラムを掲げ、学生会員の年会費を補助(無料に)いたします。この機会に繊維学会へご入会ください。

参加登録：2025 年 7 月 1 日(火)～2025 年 10 月 14 日(火)

懇親会：懇親会：10 月 27 日(月)

支払方法：銀行振込：三菱 UFJ 銀行 目黒駅前支店 普通口座 4287837 (口座名)一般社団法人繊維学会

(注意)* 参加登録費には web 予稿集閲覧権が含まれます。

- * 予稿集の冊子体配布はいたしません。ご了承ください。
 - * 研究発表会へ参加される方は、必ず事前参加登録をお願いいたします。
 - * ポスターセッション発表される場合には、事前に必ず参加登録をお願いいたします。
 - * 参加に関するご質問は学会事務局までメールでお問い合わせください。
- 繊維学会事務局：office@fiber.or.jp
- * その他、不測の事態が生じた場合は、WEB 上で告知することをご承知おきください。
 - * 開催期間中、参加におけるホテルのご予約等は各自でご準備ください。

2025 年 繊維学会秋季研究発表会実行委員会：

実行委員長：松葉 豪(山形大学)

実行委員：(順不同)

寺境 光俊(秋田大学)、伊藤 浩志(山形大学)、三ツ石 方也(東北大学)、根本 修克(日本大学)、
芝崎 祐二(岩手大学)、浦木 康光(北海道大学)、岡田 修司(山形大学)、宮 瑾(山形大学)、
原 光生(香川大学)、吉川 千晶(物質・材料研究機構)、平田 充弘(山形県工業技術センター)、
奥田 結衣(山形大院有機)

2025 年 高校生研究発表会発表募集

繊維学会が、将来の繊維技術の発展を期して設けました「高校生及び高等専門学校生による研究発表会」を、昨年度に続きハイブリッド形式にて開催いたします。

大学や企業、公的研究機関の研究者との質疑応答ができるように計画をしておりますので、奮ってご参加ください。
対面でご参加の方は、東京農工大学 科学博物館の見学も行えます。

主 催：一般社団法人 繊維学会 企画委員会

日 程：2025 年 11 月 15 日(土) 13 時～(東京農工大学 科学博物館見学 11 時～)

開催方法：ハイブリッド開催

会 場：

対 面 会 場：東京農工大学 東小金井キャンパス

オンライン会場：Zoom システム利用

募集内容：衣食住の身近な生活や環境における繊維・プラスチックに関する研究

テキスタイル(繊維製品)や生活用品、資材(ゴム、生分解性材料等)、また SDGs にかかわる事項等、様々な分野での実験結果や調査研究を募集します。

* 募集内容に関するご質問は、office@fiber.or.jp へお気軽にご相談ください。

発表申込：* 団体でのお申込の際は、担当顧問または教諭の方でお願いします。

発表申込期間：2025 年 5 月 7 日(水)～10 月 10 日(金)

発表形式：口頭発表にて実施(会場またはオンラインでの口頭発表(動画でも可))

参加登録費用：無料(担当顧問または指導教諭を含む)

第61回「感性研究フォーラム」講演会

年間テーマ『感性とデジタル』

主催：繊維学会研究委員会「感性研究フォーラム」

協賛：一般社団法人日本繊維製品消費科学会、一般社団法人日本色彩学会、一般社団法人色材協会、一般社団法人日本家政学会

日時：2025年8月27日（水）13:30～16:15

開催方法：ZOOM を利用してのリモート講演

プログラム：

13:30 開会

13:35 開会挨拶

神戸松蔭大学 徳山孝子（研究委員会「感性研究フォーラム」委員長）

13:40～14:40 コミュニケーションⅠ（講演）

『デジタル時代のファッションデザインとビジネスモデルのアイデア実装ならびに実践』

共立女子大学 准教授 Olga（オルガ）

本講演では、デジタル技術の進展がもたらすファッションデザインとビジネスモデルやアイデアの構築方法を、実践的アプローチと事例を元に紹介します。gpt や midjourney などの生成系 AI や、Canva 等のオンラインデザインツールを活用したデザインプロセスの DX 化から、さらにファッションアプリケーションや Web サービスの企画立案、モック制作に至るまでの実践的な活用におけるデジタルツールの応用事例について取り上げます。より多角的かつ創造的なデザイン視点を持ち、アイデアを形にする際のスピード感のあるクリエーションが可能となった時代に、最新のテクノロジーをどのように教育現場に取り入れ、社会連携を前提とした学生へのスキルの定着や向上を図るのかも合わせてご紹介します。

14:40～14:55 質疑応答（フリーディスカッション）

14:55～15:00 休憩

15:00～16:00 コミュニケーションⅡ（講演） 『CG×生成AI×アニメーション：映像表現の現在地とその先』

株式会社タイトルラボ 制作部 CG テクニカルCG アーティスト 稲田峻也（いなだ しゅんや）

同上

赤岩真作（あかひ やしんさく）

デジタル技術の急速な進化により、映像表現は「感性」の可視化や多様な人々との共創へと大きく領域を広げつつあります。近年では、Blender をはじめとするオープンソースの3DCG ツールや、生成 AI の進化によって、CG 制作は専門的なスキルを持たない人々にも開かれた創作手段となっています。本講演では、AI 技術がもたらす映像制作フローの変化、そしてリアルタイムレンダリングによる没入感の高い体験の事例を紹介いたします。

さらに、CG アニメーションの事例を題材に、映像表現の可能性の広がりについて探ります。アニメーションは、時間・空間・キャラクター・感情などを自在に操る表現手法として、感情の喚起やメッセージの伝達に優れた力を持っています。アニメーションが生み出す豊かな感情表現やメッセージの伝わり方、そして今後の創作の可能性について掘り下げていきます。

16:00～16:15 質疑応答（フリーディスカッション）

16:15 閉会：次回の予告：2026年3月上旬の講演を予定しています。

参加費：2,000円（参加者一律）、

但し感性研究フォーラムの会員様、学生は無料です。会員の年会費は2,000円です。会員申込は、次のHPをご覧ください。

<https://www.fiber.or.jp/jpn/organization/committee/sensibility.html>

申込方法：2025年8月22日（金）までにE-mailで参加申込するとともに次のゆうちょ銀行に振込をしてください。

（ゆうちょ銀行の振込手数料は個人負担となります。）

入金確認後8月上旬頃から順次zoomのIDとパスワードをお知らせします。

（注1）IDとパスワードが届かない場合は、ご連絡ください。

（注2）録音、録画、スクリーンショットは禁止します。

（注3）講師の会社関係者は申し込みをさせていただきますが、参加費は無料です。

お支払先：ゆうちょ銀行 記号番号 14360-88230261 感性研究フォーラム（カンセイケンキュウフォーラム）

E-mail：KANSEIFORUM@gmail.com 件名に「第61回 感性研究フォーラム参加申込」、

本文に「氏名、所属」をご記入の上、送信して下さい。

問合せ先：〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-9-208 一般社団法人繊維学会(内) 感性研究フォーラム事務局

TEL:03-3441-5627 FAX:03-3441-3260 E-mail: KANSEIFORUM@gmail.com

論文募集のお知らせ: ISF2024 特集号

Journal of Fiber Science and Technology (JFST) では、ISF2024 に関する論文の特集を行います。この特集では、繊維科学および技術における最新の進展や革新的な研究を収集し、広く共有することを目的としています。著者の皆様にとって、研究成果をより幅広い学術コミュニティと共有し、本分野における議論をさらに深める絶好の機会となります。



さらに、本特集に採択された論文の掲載料については **50%の補助** が適用されます。

- **特集号テーマ:** 「ISF2024 における繊維科学および技術」
- **対象論文:** 原著論文、総説論文、技術論文等

投稿:

- **投稿期間:** 2025 年 2 月 1 日 ~ 2025 年 ~~5 月 31 日~~ 9 月 30 日
※締切前に投稿された論文は順次査読され、採択され次第、公開されます。
- **投稿方法:** 下記のウェブサイトをご参照ください。
<https://www.fiber.or.jp/jpn/publication/contribution.html>
- **使用言語:** 英語

皆様の積極的なご投稿をお待ちしております！

令和 7 年度化学系学協会東北大会

主 催：日本化学会東北支部

共 催：高分子学会東北支部、日本分析化学会東北支部、化学工学会東北支部、有機合成化学協会東北支部、電気化学会東北支部、日本材料学会東北支部、繊維学会東北北海道支部、無機マテリアル学会北部支部、分子科学会東北地区、日本セラミックス協会東北北海道支部、日本接着学会東北・北海道支部、高等学校文化連盟全国自然科学専門部、山形大学(いずれも予定)

会 期：2025 年 9 月 6 日(土)~7 日(日)

会 場：対面開催：山形大学米沢キャンパス(〒992-8510 山形県米沢市城南 4-3-16)

[アクセス]<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/access/#yone>

交 通：

1. JR 米沢駅から市街地循環バス右回り「山大正門」下車 約 15 分
2. JR 米沢駅からタクシー 約 10 分
3. JR 南米沢駅より徒歩 約 5 分

※駐車スペースが限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

講 演：

1. 一般講演：ポスター発表
 2. 特別講演：日本化学会東北支部の推薦によるテーマで 3 件
 3. 招待講演：各学協会からの推薦による現在脚光を浴びているテーマ
 4. 依頼講演：各学協会からの推薦による研究者講演
 5. 特別企画：化学教育研究協議会東北大会、有機化学コロキウム、物理化学コロキウム、高分子コロキウム、他
- ※口頭発表は講演者持参のコンピュータによりプロジェクトを利用

発 表 申 込 締 切：7 月 31 日(木)

発 表 予 稿 原 稿 締 切：7 月 31 日(木) ※高校生のみ 8 月 25 日(月)

事前参加登録申込締切：8 月 15 日(金)

発 表 申 込 方 法：日本化学会東北支部ホームページ(<https://tohoku.chemistry.or.jp/>)にて案内
(4 月上旬頃公開予定)

参加登録費：[事前登録]一般：4,000 円、教育会員・大学院生：2,000 円

小・中・高教員、高校生、高専生、学部生：無料(いずれも予稿集代を含む)

[当日登録]一般：5,000 円、教育会員・大学院生：3,000 円

小・中・高教員、高校生、高専生、学部生：無料(いずれも予稿集代を含む)

懇 親 会 9 月 6 日(土)18 時より、会場未定

会 費：事前登録：一般 8,000 円、学生 5,000 円

当日登録：一般 9,000 円、学生 6,000 円

事前参加登録申込方法：日本化学会東北支部ホームページ(<https://tohoku.chemistry.or.jp/>)にて案内
(4 月上旬頃公開予定)

問合せ：〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3 東北大学理学部化学科内

公益社団法人 日本化学会東北支部事務局(担当：千葉依巳 熊谷沙緒理)

TEL・FAX：(022)224-3883 E-mail：nikka.tohoku@chemistry.or.jp:

HP：<https://tohoku.chemistry.or.jp/>

変更などの詳細は、日本化学会東北支部ホームページ(<https://tohoku.chemistry.or.jp/>)にてご確認ください。

2025 年 2 月 8 日
13:00～14:50

繊維学会 臨時理事会議事録

1. 確認事項

出席理事

辻井敬巨、村瀬浩貴、濱田仁美、増田正人、松葉 泰、永田謙二、末信一郎、
氏家誠司、武野明美、花田明美、竹中幹人、木村睦、巽大輔、高崎緑、神山統光、
出口潤子、増森忠雄、香出健司、清水宏泰、東城武彦
(オブザーバー参加：平佐多久品)

欠席理事

櫻井伸一、中澤増元、上高原浩、内田哲也、道信剛志、大松沢明宏、山崎陸生、
小泉聡、森下美由紀、石澤仁志、大田康雄、小原奈津子

監 事

土田亮 (敬称略)

会 場

zoom システムを利用したハイブリッド開催
対面会場 繊維学会事務局(品川区上大崎 3-3-9-208 最寄駅 JR 目黒駅)

理事 30 名のうち、出席理事 20 名、監事 1 名の出席を確認し、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、ハイブリッドにて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することを確認した。続けて、辻井会長が議長となり臨時理事会議事へ移った。

2. 査議事項

1) 繊維系三学会合併協議について

資料 1_課題の整理のポイント、資料 2_三学会統合に関する方針に関する提案、資料 3_繊維系三学会合併協議に関する前回理事会でのご意見、資料 4_財務グランドデザイン (20250208)を用いて、繊維系三学会合併協議の現状について辻井会長より説明がなされた。主なポイントは以下のとおり。

・「課題の整理のポイント」には、合併協議案の前回案と今回案の違い、公聴会等で指摘された事項等、合併理由や合併協議の進め方、スタンスについてまとめた。ポイントとなる学会名、ビジョン・ミッション、運営体制、論文誌・学会誌、研究発表会、催事セミナー、支部・研究委員会、国際化、事務局、財務の問題について、合併協議会へのフィードバックにあたり、本臨時理事会で議論し、各論のみならず、もう一度見直しでできればと考える。

・合併可否で重要なビジョン・ミッションはもとより、持続可能な学会運営ができてこそである。「財務グランドデザイン」では、特に指摘事項である事務局問題と財務問題について、会費収入見通しの見直し、各項目へかける費用、運用方法の重要性などを再精査し、課題を克服する必要がある。人件費については専門家へ給与体系の適正化について相談、事務局費については、2 拠点とした場合の固定費等々の精査、見直しが必要。

・「繊維系三学会合併協議に関するご意見」では、前回理事会議事録から、重要な理事のコメント部分をまとめた。

・「三学会合併に関する方針に関する提案」として木村理事から説明がなされた。現状予算から考えると、新学会予算が 8,500 万円になることは事業を拡大することを意味する。ただ、合併したとして正会員が 1.5 倍程度になる想定であり、リソース的により厳しくな

		るだけではないか。現状のビジョン・ミッション案はこれで構わないが、裏のミッションは、繊維に関わる学術もしくは、科学技術に関する学会を後世まで残すことである。シミュレーションからも分かる通り、会員減少が続く中で高齢化も進み、その中で限られたリソースをどうやって配分していくのか、学会として体をなす最低限の機能は何かを今一度考えるべき。情報を発信する年次大会、学会誌はメインストリームであるが、その他に関しては附則的に後から生まれ、いろんな活動として付与されてきた。この統合を機に、一旦今までの事業をスリム化し、全部継続する概念を描いて、ミニマムでどういう事業ができるかを検討すべき。また、その中でどういうお金があるかを、もう一度精査すべきである。現在の協議案は、三学会の伝統と歴史を継続するだけであり、その概念を一回捨てない、後世に学会を維持するために無理をするだけ。組織があればあるだけ、その活動を維持せざるを得ない状況であり、統合を機に、支部・研究委員会を一回ゼロに戻してはどうか。その中で、例えば大型の科研費や NEDO プロジェクトを作るための研究委員会があってもいいが、ただし時限的とすべき。若手に関しては継続的に委員会を作り、更に理事に入ってもらうなどして、どんどん意見を言ってもらえる組織に作り変えていくべき。これらを実現するためには、平場での議論はしづらみが多すぎて進まないと考えるので、ぜひトップダウン（辻井会長の判断）で、一番縮小した形の、あるべき姿を検討いただくことが必要ではないか。
【説明に対する質問・意見】		
・現在の合併協議案は叩き台と理解しているが、今後の活動をより拡大する、縮小する路線は、今後どうやって誰が決めるのか？更に、それをどうやって、いつの時点で会員へ伝え、どういように決議をされるのか。		
→今回案はあくまでも協議案で、これを叩き台として各学会でどういうスタンスで合併に臨むのかを提案、協議会へフィードバックする。協議会では、理事会をベースに三学会で議論をしつつ、最終的に「合併可否判断をする合併案を提案」し、理事会に持ち帰って承認。会員に真意を問う形を想定している。その際、当然ながら、繊維学会として最終案を受け入れるかどうかは、最終的に議決権行使で会員の総意を決めることになる。なお、それまでに、更に議論が必要ということになれば、そこに時間を取る必要があると思っ		
ている。		
何れにしても、各学会からのフィードバックをどういよう形に落とし込むのが重要である。フィードバックのプロセスを何度でもやれば良いが、学会運営的にも、携わっている方々のエフォートから考えてもそれは難しく、一度のフィードバックで最善と思われる案を作り各理事会に諮ることになる。理事会で、議決権行使に進めても良いかどうか、あるいは進めても良いが会員へ更に説明をするべきなどを含めて総合的に判断することになる。思い切ったミニマム案をフィードバックし、それを繊維学会が相対する合併案とした場合、思い切った案であればあるほど、会員への説明は更に必要になってくる。ただ、良い意味で思い切った案にしなければ、新学会として次世代を見送せないということになると考える。		
・もし統合して、三学会から編集委員会へイープンに人を出すようなことがあると、人数だけが増えて業務は変わらないことも心配になる要因。学会に関われば関わるほど競争する状態を作ってしまうこと、「もう学会に関わりたくない」と感じる人も出ていいい」		

		いう風潮になってしまうことも懸念事項。加えて一次協議案は、予算稼ぎの為に色々行事を開催し事業を運営しなくてはいけない構成で、現実的にはかなり厳しいと感じる。→説明が不十分なところであるかもしれないが、1 学会としてどうあるべきかで議論してきた。ただし、財務の問題については切り込めていなかったと考えている。
・もし現状の繊維学会予算で十分な活動には至っていないと総括するのであれば、結局予算が増えたとしても十分なサービスができないということではないのか。財務に関してちゃんとした解決になっていないと感じる。大学だけでなく、企業側にも深刻な問題を抱えられているはずで、8,500 万円予算を集めること自体が結構大変ではないか。		
→新学会としてどういようところを目指すのか、どういよう活動が必要なのか。考え方としては、ミニマムでスタートしてそこから少しずつ活動を強化していく選択と、もう一つは合併の大きな転機で良いスタートダッシュを切るために、全てを縮小するのではなく強化する部分をしっかり考えながら検討していく選択。その上で、最適な案にはこれだけの経費がかかるが、その経費が果たして持続可能かどうか次の問いになるのかと考える。そこはトレードオフになるので、落としどころは当然ながら考えていくべき。そういう意味で、ミニマムスタートなのか、活動基盤を確保していくために多少投資し強化するのかの考え方が必要。ただ、その範囲を議論する必要があると思う。		
・選択と集中となると、大学でも企業でもフェアになるのがなかなか難しい。		
→ミニマムな部分は選択となるが、新学会の考え方やスタイルに基づいて行えば、それは選択と集中の問題ではないのではないのか。学会の基盤をどういようふうに構築するのかの議論になる。		
・合併しなくても繊維学会として掛け持ちしなければならない課題はあるが、今までの意見の中で問題なのは、「合併しない」という理由になり得るような重要項目があるのかどうか。詳細は合併が決まってから皆で討議しながら進めればよいことであり、公聴会での意見は、ただただ問題だから言っているだけでよく分らない。まずは、「この形で合併しませんがいいですか？」と会員へ問うてはどうか。先に合併することを決めて個別のところは個別に、もし重要な案件であれば、もう一度会員に聞く形で進めてはどうか。全部一度に決める必要はなく、「[完全な完成形を皆でできて承諾し合併する]」のは無理があるのでは。もし今回の合併に対して大きな問題点でないのであれば、その部分は切り離して考え、「合併は問題ない」と言えるような形を作りたい。		
→皆様のコンセンサスが得られていないところ。今後、三学会合併可否の判断に必要な重要事項を選択、検討しておくことが大きな方針。これをしっかりと議論する必要がある。もう一つは、ある程度、持続可能な運営ができることが担保されているということも大事。その上で合併可否判断をしていただき、その後、色々な課題を具体化し検討するべきだが、その切り分けが上手くできていない。		
・合併に反対されている方たちは、繊維学会が今のまま持続可能と思っている節があるが、大分以前の理事会では、財務的にも何年しか持たないなどの危機感があった。7 0 周年や小島先生の寄付金があったことで、繊維学会だけが財務的に楽勝で他の学会が先々危ないとかの話があったが本当そうなのか？収入は減少傾向で、支出は固定費高め増加傾向にある現状を考えると、赤字を事業で賄わなければならない数字は明確で、現在の繊維学会は持続可能でないと考える。事例反対の方からは合併のメリットがあるが聞かれるが、それを全て示していたら多分何十年もかかってしまう。やはり、大枠でい		

		い、というやり方で進め、中身を良くして運営していくのが望ましい。繊維学会も、もうお尻に火がついている状態であることを示すべき。企業でも工場や事業所の閉鎖の際は愛着もあり様々な意見が出るが、事業が立て直されて結果が出れば、良かったというふいよう思う。目先だけ見ている現状は、決して持続可能であると思わないでいただきたい。今後、事務局費用が上がって、色々な物価上昇に伴う支出は増えていくなかで企業並みに会費などの収入が減っていくと赤字幅がより大きくなる。3 学会、特にアカデミアが同じ方向性で一致できない状態というのは非常に悲しく、ちょっと情けないと強く思う。
・合併に関する情報発信が不足している指摘があった点についてどうすればいいか。合併に関して興味がないのか、それとも、関わりたくないことになると思っているのか。議決権行使となった場合に、ぜひ自分が所属する団体の方向性を賛成反対（白票を減らし）で示していただくことが重要。		
→4 回公聴会を開催したが、参加者はごく一部に留まっているのが現状。理事会、合併協議会議事録も公開はしているが、情報がまだ広く伝わっていない印象。現実的に、膨大な議事録を読んでもらうことは困難かと思うが、最終的に、議決権行使に進む前には、この理事会に対する信任を得られるような大きな方向性を示したメッセージを出すことが大事だと考える。ビデオメッセージを作成して会員に見ていただきたいと考えている。		
また、一つの機会としては、フィードバック後の最終合併協議案を年次大会で会員に提示し、繊維学会としてのスタンスを説明するのが重要と考える。また、三学会間で交流が深まるようなきっかけとなる企画についても検討、提案いただいている。		
議決権行使をどの段階でやるのか、本日の臨時理事会で議論させてもらいたい。繊維学会としての議論がしっかりできていないと、結局新学会で良いスタートが切れない。それでは元も子もないので、議論に時間をかけも良いスタートを切れることが大事。その意味では、理事会として合併の方向性を承認した上で、議決権行使までの間は会員への周知と意見交換を継続していく。その内容として、大きな方向性というのに対して賛否を問いい、各論に関しては合併のゴザサインが出た後で検討します、というように切り分けて説明をさせていただく。最終的には会員判断ではあるが、理事会は会員からの判断を委託されて運営している。理事会として承認した案で、会員に対して説明するのが次のステップであると考えている。		
・走りながら中身は決めていけばいいとの意見もあるが、一方で、合併してしまうとその形で走らざるを得なくなることもあり、結局、負荷が若手にいくのではないのか？それが結果的に会員減少につながる可能性もあるので、一度リセットするのが大事。合併するとしても、試運転的な運用ができるというのではないが、組織に関連して集まり議論するコミュニティとして、後進にとっても魅力的でバランスの良い形を学会活動を継続していけることが重要。		
・世の中全体で繊維技術の位置付けが下がってきているが、繊維学会に参加している上では、アカデミア・企業・官がよい関係で交流できている印象をもつ。ただ、企業の若手を見ると、働き方改革等が叫ばれる中、休日や業務時間外に学会へ関わることも、何らかの役をするに民間として関与して言いにくく、やりにくいのが現状。発表などでアカデミアとの交流や関わりを通して、企業の技術者にも社会貢献している達成感を感じる場、自己実現のできる学会であってほしい。合併することで、働きが全部三倍になるのではな		

く、会費の面についても、時間的なその努力についても、極力コンパクトになりながらも、三学会のテリトリーをコンパクトに実現できる方向で進めて欲しい。

→ 会員からの理解を得るためには、三学会協議としてではなく、繊維学会の問題として現状分析を示さざるを得ない。繊維学会の現状を見てした上での持続の性能、将来構想実現が現状として可能なかどうかという議論になろうかと思う。将来構想を踏まえて、合併した方が良いのか、あるいは単独でいった方が良いのか議論を見直すタイミング。

大きな変革を生み出し持続可能な新学会としてスタートするためには、三学会のこれまでの活動は基本的に白紙に戻したうえで必要なものを構築していきましょう、となると、なかなかイメージも湧かず合併案にはならないが、新しい学会の方向性として学術技術の向上と異分野融合や新分野開拓、人材育成と人材交流、分野貢献や社会貢献が三つ柱となることがビジョン・ミッション案にも盛り込まれている。その観点で、出版、行事、催事などの活動で必要なものは何か、更に良いスタートを切るためにはどういった人入れが必要かを含めて大枠を提案し、三学会から合併のゴサイン出た際には、どういところを具体化していくか、出来ることと出来ないことは当然あり取捨選択することになるが、大きな方向性を議論する方向へ持っていかればと思う。

- 前回の理事会で学会誌に関する懸念の声が多く聞かれた。学会誌の電子化と年間 12 号発刊の継続などに関して、将来構想委員会と編集委員会の連名で会員アンケートを実施したい。冊子で絶対欲しいという方、電子でいい方、Jstage 利用のあり方など、近々会員の皆様に届く可能性があることをこの場でお伝えしたい。結果は、理事会で報告させていただく予定。繊維業界の厳しい状況は報道にもある通り。繊維学会も毎年 100 万円ほどの赤字を、10 年に一度の国際会議などでカバーし運営してきたが、それもだんだん苦しくなってきたことは事実。そういった時に、収入を増やす活動自体のマッパワーを捻出することはものすごく大変。学会誌発行に関しては縮小していかなければならないのは明白で、完全電子化で皆様のご理解が得られたら、相当支出が減らせると考える。ただ同時に、広告費、学会誌購読料収入がなくなるとも思案しなければならぬが、支出が減る効果の方が多分大きい。三学会が合併した際には、当初から電子化を選択することも選択肢になる。

→ 財務問題や現状問題で、協議会では学会誌の電子化などについて十分に踏み込めていなかった。中長期的に分野が融合しその中で人材を育てていくツールという意味で学会誌はすぐ大事。編集委員会と執筆いただく方の負担軽減をしながらも、良い紙面づくりがどうやったらできるか、今回のフィードバックで再検討が必要。やがてこうなるのではないかも想定しながら、この機にぜひ改革するということろを、もう一度 WG や協議会メンバーで意識共有を図り、議論したい。それを、其々の学会に最終案として持ち帰り、自分達の学会にとって一番いい選択肢だということがちゃんと伝えたと上で、単独運営を選択するか統合を選択するかを問うことになる。学会誌・論文誌はこれまでも文化の問題とかいろいろあるが、基本的には一学会として一つの論文誌を確保し、自分たちの活動基盤を強化する。分野の振興のためにしっかりと位置づけたい。

- 基本まっさらにしてとの提案は良いと思う。ただ、それは新学会の理事が、もう一度自分たち（三学会）が持っていた資源をどうするかを検討していただいたうえですべきこと。統合前に会員へ伝えると不安を煽るだけになるのでは。我々理事会としては、統合しない選択肢はなく、つまり統合しないなら体力のない学会から順番に解散し、

それを他学会が吸収するみたいなのは効率的悪いことになる。各学会に力があり、色々ないいものを持っているうちに合併し、より力を強くしようが今回のコンセプト。ところが、そう進めたいが、会員の皆さんに理事会が統合するように誘導していると思われるのも困る。一方、比較的無関心な会員も多い中、投票が始まってから「そんな聞いていない」「どんなことなの」と思う方が多いのでは。それまでに公聴会開催、学会誌等で通知をしてもそういうことは全然知らず、気にもされていないくて、その段になって急に気にされる方も多いはず。その時に、公聴会の様子や合併の経緯が HP などで簡単に見られるようにしておき、皆様に公表していたことが伝わり、少なくとも急だったというイメージにはならない対応が必要がある。それと、現在開催活動が、まっさらになってしまいいろいろと、関係する研究委員会も無くなってしまいかもしれないと思われることは大きくマイナス要因。多くの一般会員にとって、「今までと変わらず活動で自分に影響がない」けど、少し新しくなって良くなることもあるのかな？ くらいの感覚の方が多ければ、投票しやすいと思う。実際に運営し始めたら、木村理事の提案資料のように、基本、新理事会には真っさらなところから考えていただきたい。

2) 最終的な合併協議案について

最終的な合併協議案をフィードバックして協議会に戻す上で、繊維学会としてどういうポイントを含めて議論してほしいか。辻井会長から下記の説明がなされた。

【学会名の問題】

繊維学会からのフィードバックとして、「繊維学会」とするの【日本繊維学会】とするのかについては、日本をつけることでプレッセンが下がってしまう懸念もあることは承知している。これは結局、新学会として決めれば良いのではないかと一方、新学会立上げには学会名を決めておく必要がある。

【ビジョン】

将来構想委員会が検討しているアクションプランへフィードバックし、より強化する

【運営体制】

どういう事業をどういうコンセプトでやっていくのか、その中で、会員や事務局負担を軽減するかを考えた上で、最適な構成とする。

【論文誌・学会誌】

本理事会にてご意見いただいたとおり。学会誌についても然り。

【研究発表会】

年次大会と秋季研究発表会とは、重要な核となる事業。特に異分野融合が進んだ新学会のメリットを十分に感じられるように実施すべき。ただ、繊維学会規模で年 2 回の研究発表会を開催するかどうかは検討が必要。2 回開催はメリハリをつける前提で検討し同時に、運営実行委員会負担が軽減できるような工夫が必要。事務局体制の強化と DX 化。

【催事】

催事は、特にテキスタイルカレッジ。日本繊維機械学会のテキスタイルカレッジに対する思い入れも強く、長年開催してきた。社会に必要とされている講座と判断するのであれば、社会貢献の意味でも分野振興の意味でも継続すべき。ただし、その部分については

まだ十分精査されていないのではないかと。そこを直撃に見つめ直して、(合併決定後、会員の意見を含めて) テキスタイルカレッジも刷新していく方針とする。

【支部・研究委員会】

本部と支部との役割について、もう一度協議会で議論してほしい。大きな見直しが必要など、前回理事会でも課題をいただいた通り。研究委員会とても大事。フィードバックの際に、ここそ現状の活動は白紙に戻し、新学会としてどういようになら変わっていくのか、自分達の研究分野も学会合併を機に大きく発展させるチャンスであるとの視点でもう一度よりしっかりした提案とする。このコンセンサスは、各学会で地道に議論しておく必要がある。この提案をする時、少なくとも繊維学会として、研究委員会を白紙に戻し、新しいスタンスでもう一度考え直すことを研究委員会委員長会議等で議論しておく必要がある。

【国際化】

国際化については必然的にやっていくべきこと。ただし、内容や手段が合併可否判断に関わることはないので、ここは三学会が一緒にすることが決まった段階で、より具体的に検討していく。

【事務局・財務問題】

やはり課題は、事務局と財務の問題。事務局に関しては繊維学会として議論は 2 つ。まずは 2 拠点化の問題。いずれにしても移行期は 2 拠点でいかなるを得ないが、個人的には色々な条件さえ整えば、2 拠点のメリットを生かした事務局運営が可能と考える。ただし、そこでの問題は、その境界条件が成立しなかったとき、どういようになら 1 拠点化へ進めるのかという点。現状の案には 1 拠点化へのロードマップがないので、今後、議論を進めるうえで組み込んでおく必要がある。繊維学会判断として、持続可能な学会を想定した際に、移行期の 2 拠点は致し方ないが暫定的であり、やはり 1 拠点と考えるのであれば、それを合併案に入れておくべきとする判断もあり。

財務の問題は財務グラウンドデザインの方針をもう一度検討し、予算規模はさておき、各事業や行事の位置づけを組み込んだ、新学会としての財務グラウンドデザインが必要。会費収入、広告収入の部分が達成可能かどうかについては、再度シミュレーションを出していかざるを得ない状況。もう一度協議会に投げ返して、細かな数値よりは大きな方針を検討してもらおう。

今後は、三学会合併に向けて最終案を理事会で承認し、それを各会員に可否判断いただくまでの間に、(議決権行使までに時間をとり) お互いの学会を知り、交流が図れる企画を開催しませんかと提案もしたい。また、学会の年齢構成の問題についても向き合う必要がある。特に若手の負担をどのように軽減していくのか、更には、どのようにして若い会員や企業の個人会員が増えていような能力ある学会にするのかも新求していきたい。

- 辻井会長の説明では、合併することを先に決めておいて細かいところを後で考えたと書かれていると思うが、(例えばホンダと日産の合併の話があって、最終的に株主総会で株主の議決を取ると想像するが。) 結局、ディールをちゃんと決めておかないと、議決できない気がするがどうか。後で何とかすればいいという可能性はあるか？ また、合併が決まってからディールを決めればいいというのは、そもそも株主(会

員) を誤魔化しているというか、そういうふうに取りられるような気がするもので、あまり言わない方がいい気がするがいかか。

- これからの繊維学会のあるべき姿を示している合併協議の答申には大賛成。学術の追求だけでなく企業の若手にとっても、学会が若い人が切磋琢磨できる魅力的な場として、繊維産業に関わる若手に夢を持っていただくものであってほしい。財務については、これ以上確度の出しようがないのではないかと。あまりそこにはばり努力を費やすのはどうかと思う。今足りないのは、ミッション・アクションプランに対して、限られた原資からどうウェット付け、予算規模からの分配比率を明確にする議論をすべき。
- やはり重要なのは優先順位、重み付けではないか。現状の提案では全てが並列で書かれているが、合併を機に、繊維学会としては年次大会をメインとする学会にしようとか、やはり大きな方針変更が必要ではないか。全てをフラットには極論かもしれないが、少なくともこれからの状況を考えて、全ての活動をそのままやることは現実的ではないことは、皆さん同意見だと思う。その中で、どういようにならするかを平場で、全員で議論することでない気がする。ある意味、三学会長間で少し議論されてはいかか。

→ 例えば、その催事の問題にしろ、支部・研究委員会の問題にしろということか。

- そうなると、例えば事務局の仕事、会員の役回りなどで、どういリソース配分になるかが決まってくるはず。それが、どれ位リアリティがあるかだと思う。

本日の議論に関して、理事会で発言された方もそうでない方からも、全ての理事からの意見を事務局宛にメールいただきたい旨、辻井会長より伝えられた。いただいた意見は事務局でまとめ、執行部で相談し、三学会会長へフィードバックし、最終案に向けての方針を検討することとする。

3. 監事コメント

【土田監事】

本日の臨時理事会では、繊維学会が本当に持続的かどうかという点について指摘いただきましたが、会員の年齢構成を見る限り、会員減少が一番問題と考えている。アカデミア、企業を含め、若手の供給が途絶えてしまっていることが最大の課題。これは、すぐにどうこうできるとは思いますが、少なくとも若手会の充実などで、少しでも会員減少に歯止めをかけたてきたい。協議については、全てに合意していただくのはなかなか難しいが、辻井会長には非常に丁寧な対応をいただいている。資料についても全て読まれるかはわかりませんが共有していただき、会員の皆様により理解を進めていただけるよう、丁寧な対応と情報発信をしていただきたい。理事の皆様、本当に大変だと思いますが、協議案など、会員の皆様の理解を得て、是非いいものにしていただければありがたい。

	2025 年 3 月 22 日 13:00～16:15
繊維学会 第 714 回 理事会議事録	
1. 確認事項	
出席理事	辻井敬亘、濱田仁美、増田正人、村瀬浩貴、松葉豪、永田謙二、上高原浩、氏家誠司、内田哲也、武野明義、道信剛志、花田朋美、木村睦、櫻井伸一、美大輔、森下美由紀、大松沢弘宏、出口潤子、増森忠雄、清水宏泰、東城武彦、石澤仁志
監事	大田康雄、小原奈津子、土田亮
欠席理事・監事	中澤靖元、末信一朗、竹中幹人、高崎緑、神山統光、山崎睦生、小泉聡、香出健司（順不同、敬称略）
会場	ハイブリッド開催（対面:繊維学会事務局、オンライン（zoom））
	理事 30 名のうち、出席理事 22 名、監事 3 名の出席を確認し、定款 36 条により本理事会は有効に成立した。本理事会は、ハイブリッドにて開催し、理事の意思表示は発言や挙手にて決議することを確認した。続けて、辻井会長が議長となり第 714 回理事会議事へ移った。
2. 審議事項	
1) 会員入退会について・・・<資料 1>	
	3 月 19 日（金）現在の会員数の詳細（正会員数 999 名（正会員 933 名、名誉会員 15 名、永年会員 51 名）、学生会員 224 名、維持会員 9 団体、賛助会員 89 団体） ・新規正会員は漸増的に増えてはいるが、退会者数がそれを上回るスピードである ・今回の退会理由の多くは年齢によるものや、退職に伴うものであった ・学生会員は 2025 年次大会への参加に伴う新規入会の増加と、卒業に伴う学生会員の退会により大きく変動があった 【審議結果】 入退会報告について、正会員 8 名入会、29 名退会、学生会員 115 名入会、343 名退会、維持会員 1 社退会、賛助会員は増減無しで異議なく承認された。併せて、理事各位へ会員増強についての協力が求められた。
2) 2024 年度 学会賞他各賞選考結果について・・・<資料 2>	
	【学会賞】小林 元康 工学院大学 先進工学部 教授 「高分子電解質ガラスによる機能性表面の創出と水界面構造解析」 【技術賞】堀 照夫 サステナテック株式会社、廣垣 和正 福井大学 教授 「超臨界二酸化炭素流体を用いる精練・染色・機能加工技術の開発」 【奨励賞】江口 裕 名古屋工業大学大学院 工学研究科 助教 「金属ナノオラトからの繊維状配位高分子の構築」 【奨励賞】富澤 謙 信州大学 繊維学部 助教 「配向結晶化学動の定量解析から推定したポリエステル繊維の強度発現メカニズムに関する研究」 【功績賞】武野 明義 東海国立大学機構 岐阜大学 教授

	「高分子・繊維の複合構造制御のナノ多孔設計による機能材料の創出と応用展開」 ・2025 年 2 月 15 日(土)にオンラインにて選考委員会を開催 学会賞 1 件、技術賞 1 件、奨励賞 2 件、功績賞 1 名の応募より選考を行った ・本理事会で承認された場合、受賞者紹介記事を学会誌 5 月号へ掲載し、年次大会 2 日目、6 月 12 日(木) 16:00 より表彰式と受賞講演を実施 (授賞式司会 村瀬副会長(運営委員長)、受賞講演座長 増田副会長(財務委員長)) 【審議結果】 功績賞、学会賞、技術賞、奨励賞の選考委員会結果について、異議なく承認された。6 月の授賞式において各賞授与が確定した。
3) 2024 年度 論文賞候補者選考経過と結果について(審査委員長・武野編集委員長)	
	・編集委員による評価の高い論文 7 編および論文ダウンロード数の統計データを添え、2024 年 JFST 掲載の全論文について、選考委員(14 名)に持ち点 6 点を配点、得点上位 3 編について論文賞の候補論文とした 【論文賞】10 月号一般論文 「繰り返し使用可能な炭素繊維を再生する新しいリサイクルプロセスに関する研究」 永田 康久、山本 和弥、岡田 祐二 【論文賞】8 月号一般論文 「カードラントリプロビオネート繊維の配向結晶の観察と微生物産生ポリエステル繊維との比較」木村 尚敬、加部 泰三、木村 聡、岩田 忠久 【論文賞】2 月号一般論文 「イノシトールの醗化物を利用した羊毛の濃色着色」大江 猛、吉村 由利香 ・本理事会で承認された場合、受賞紹介記事を学会誌 5 月号へ掲載し、年次大会 2 日目、6 月 12 日(木) 16:00 より表彰式を行う 【審議結果】 論文賞の選考委員会結果について、異議なく承認された。6 月の授賞式において各賞授与が確定した。
4) 永年会員(50 年)について・・・<資料 3>	
	永年会員規程第 2 条により、称号を授与される者は、繊維学会およびその前身の繊維素協会、繊維工業学会の正会員として承認を受ける年の 12 月 31 日に、通年 50 年以上在籍の者とされており、2024 年度 12 月 31 日の該当者は 1 名 【永年(50 年)会員】菅沼 恵子 昭和学院短期大学 学長 【審議結果】 永年（50 年）会員の推挙について、異議なく承認された。よって、永年会員表彰状を授与（郵送）することが確定した。
5) 2024 年度本部収支見通しについて・・・<資料 4>	
	・2024 年度本部収支見通し(2025 年 3 月 19 日時点) ・4 月 15 日(火)を提出期限として 6 支部・14 研究委員会への決算書類と事業報告書の作成を依頼済み ・辻本郷税理士法人 顧問税理士による確認、繊維学会監事、財務委員長による監査委員会を経て、5 月 24 日(土)理事会にて決算報告、総会資料作成の予定

	【審議結果】 3 月 19 日時点での本年度本部収支、各行事収支確定数字が報告された。年次大会、秋季研究発表会、ISF2024 の多大なる貢献により、2024 年度決算はプラス収支での善地となることが報告された。各行事が好調であったことから、本年度は特定資産から学会賞、学生会員補助への取崩しは行わず、本部収支から充当することも語られ、異議なく承認された。なお、各支部と各研究委員会からの決算報告書提出をまつて、5 月開催の理事会で 2024 年度の最終決算報告を行うことも報告された。5 月理事会での最終決算報告書が承認され次第、総会資料として提出されることが伝えられ、異議なく承認された。
6) 2025 年度 小島盛男基金による学生会費補助について・・・<資料 5>	
	・補助金 総額 700,000 円/年間予算 【審議結果】 例年に従い、特定資産である小島盛男基金からの充当を予算計上していたが、本年度は本部分行好調により、取崩しは行わないことが異議なく承認された。
7) 2025 年度 リカレント教育支援制度募集について・・・<資料 6>	
	・募集期間、募集人数について 【審議結果】 支援方法、選考方法については例年を踏襲、変更はなしであることが伝えられ、異議なく承認された。また、次のとおり支援対象項目への一部追記と追加を行いこちらについても異議なく承認された。「研究内容(研究の目的、および、繊維分野との関係や波及効果等を必ず記載すること)」、「繊維学会での発表実績、および、これまでの論文投稿実績」、「奨学金を必要とする理由」募集開始 5 月 1 日、募集締切 6 月 30 日としてホームページ、学会誌などで広く会員に通知することとする。なお、昨年度の採択者に課せられた義務（繊維学会行事への参加や、JFST への投稿など）が実行されているかどうかについては、追って確認することも報告された。 ・ISF 2024 で得られた収益は特定資産として積立、小島基金に追加されるのか。 そうでない場合には、収益の運用方法について会員に分かるように説明が必要になるのではないかと。収入と支出のバランスを考えると毎年 200 万円ほど特定資産から取崩して運営している現状。今回の ISF の収益をそれに加えると 5 年分に該当する。特定資産として積立でないのであれば、今後どのようににバランスを取っていくのか明確な説明が必要ではないかと。 一 今回の収益を小島基金へ上乗せすることは、現状考えていない。別途検討予定。 ISF2024 の収益分については、本部に取り込むということでは無く、今後の理事会で「どの特定資産にいくら積み立てるか」を検討予定。
8) 繊維学会アクションプランについて・・・<資料 7>	
	資料に基づき以下の説明がなされた。「2024 ビジョン・心躍るつどいの場へ」として様々な議論を行った結果、アクションプランを 8 つに絞って再度提案し、現在まで特設構想委員会へ検討を行ってきた。学会の魅力度向上、新分野開拓、学術と技術の伝承、人財育成、会員増強、運営基盤強化という形のアクションプラン。ミッションは繊維学会の定款の通り「繊維に関連ある学理とその応用の進歩普及を図り、学術文化および産業の発展に寄与

	することを目的」。ビジョンはミッション達成のために繊維学会として目指す理想像を表現する必要があると考え、それを踏まえて「心躍る集いの場へ」という形で表現している。アクションプラン 1 として、情報共有・発信。プラットフォームの強化、特に情報発信体制の様々な強化、繊維に関する情報センターの役割を果たしていくことが繊維学会としての一つの役割と考える。それによって、繊維に関する情報はここに来れば得られるというような位置づけで、魅力度を向上していきたい。更に、研究者と技術者がマッチングできるような仕組み作りについて意見があった。新しい形の会員サービスを提供していただけるような活動が今後必要。 アクションプラン 2 として、事業の更なる充実。年次大会等における産学官異分野との交流の拡大、繊維学会の専門領域をさらに深掘りし JFST のプレゼンスを向上させることを盛り込んだ。 アクションプラン 3 として、新たな会員獲得も必要で、分野交流のプラットフォーム構築。今まで繊維にあまり関係していなかった異分野の研究者を積極的に招き、深い議論が可能な交流の場を構築し、新しい学術の創発を目指す。 アクションプラン 4 として、国際連携の強化。既に、国際連携委員会でも議論いただいている国際人材ネットワークを高める仕組みを作りつつ、競争的資金の獲得やアジアにおける交流の推進を継続する。 アクションプラン 5 として、学術講座事業のリニューアル。既存の講座の刷新を行い、繊維関連の基礎教育を更に強化し、社会課題にフォーカスしたセッションの立上げなどより充実させていく。 アクションプラン 6 として、未来のリーダー育成。若手が主役となる活躍の推進、交流の場の提供、産業界と連携した実践的な学習の機会等を提供すること、若手や学生会員のスキル向上などの施策を取る。 アクションプラン 7 として、法人会員へのサービス向上。維持・賛助会員のニーズを反映し、魅力ある事業を提案していく。 アクションプラン 8 として、学会運営の効率化による財政の健全化。収入源を多様化し、学会運営を効率化するための具体的な措置を講じ、研究活動支援体制の強化を行う。また、委員等の負担を軽減し、より有効な会員活動の活性化をしていく。 具体的方策案として、フェーズ 1 では既存プラットフォームを活用していきながら、フェーズを変えて 5 年位でアクションプランを実行するイメージ。ただし、まだ議論の途上で、新規の取り組みの仕組み作りが必要、情報提供、特に若い研究者からはもっと SNS を活用した情報発信が必要なのではないかという提案あり。若手が主体となって活躍している姿が見える場を作っていくことも必要。 ただ、アクションプランの実行にあたっては、新しいことを加えることで現場が疲弊していく現状もあるのが実情。例えば夏季セミナーと秋季研究発表会を統合し、大きな研究発表会を年 2 回にする、基礎講座、応用講座、技術講座をリニューアルし、3 つのイベントを 2 つに集約するなどの検討が必要と考えている。また、学会誌出版に関しても費用面や出版に関わる編集負荷を考えると現在の 12 号を 6 号にするなど検討が必要。また最終的には冊子を廃止し完全電子化へ移行していくなどの課題山積。
--	--

【審議結果】

会員各位へ公開できる状態とするため、本理事会での意見を反映して改善し、将来構想委員会でもブラッシュアップしていくことを提案し、異議なく承認された。また、会員へ公開するにあたり、事前にメール審議を行うことも併せて承認された。

・このアクションプランは組織学会がこれまで通り単独で活動していることを想定して検討したものの。

→ 組織学会が単独で活動することを想定している位置づけ。

・将来構想委員会では、学会のミッション実現のため、中長期的なアクションプランと方向性を示すべきとの意見もある。将来、運営の足枷にならないよう大きな方向性を示しつつも具体策についてはその時々で理事会で検討いただき実施するものと認識している。

→ その理解の通り。

3. 報告事項

1) 組織系三学会合併協議について・・・<机上配布>

会長・事務局長会議開催について辻井会長より、以下、報告された。

・2月末に3学会の会長・事務局で意見交換を実施。第一次合併協議案に対して組織学会の公聴会や臨時理事会、支部等との意見交換会で様々なコメントや意見があったことを伝え、それらを反映した第一次合併協議案へのフィードバック提案をまとめ提示した。具体的には、事業のしっかりとした見直しが必要であること。特に、事務局問題やテキスタイルカレッジの見直し（現状事業の精査に基づく見直し）を協議会として合併の最終案に反映したいことなど。

・他2学会からも公聴会の実施状況が報告され、会員から様々な意見は出たものの、基本的には第一次案の方針で了解を得つつあるという内容であった。「持続可能な日本の繊維分野を牽引するような、新たな学会になるべき」点では一致を見ている。

（4月8日に合併協議会を開催予定）

・協議会メンバーに加え、ワーキンググループメンバーにも集まっていたが、具体的な検討を進める予定。各論はともかくとも、全体的なコンセプトを共有しておくことが大事と考える。3学会が抱える現状の問題を払拭し、新たな学会としてどういうふうに進展させていくのかを会員の皆様に提示し、賛同いただけるような提案をしていけるよう議論する予定。案を提示後は、学会毎の将来構想と見比べ合併するべきか否か、会員に選択していただくことになる。

・会員数の減少、企業・大学も学会運営に人を出しにくい状況が想定される中で、運営負担が重くのしかかっていることも事実。どのように持続可能な学会運営へ舵を切れるか。単に和集合となつて基盤を厚くするだけではなく、新しいアイデアや運営方針を盛り込んでいく必要がある。会費収入の安定も難しい状況ではあるが、組織学会内では多くの会員から財政面での懸念や心配する声もあることから、事業規模や予算規模の見直しも必須。財務プランの精査。ポイントとしては、実施事業の優先順位をつけ、収益に応じた事業規模を考えていくことが大事ではないかと考える。中長期的に日本を代表する繊維関連学会として新しいスタートをするためには、現状の活動実施の前提でなく議論すべし、というところも伝えたい。

・研究委員会の位置付けについてもゼロベースでの議論を提案する。運営面での関係者の負担軽減、事務局の業務効率化も重要。支部運営についても全国網羅型を基本に、区分けなど大きな見直しが必要であり、どのように会員へのサービスを展開できるか、プラットフォームの活用などを含め、今一度議論が必要。合併しなかった場合にも、組織学会として支部の在り方をもう一度見直すタイミングではあると考えている。

・事務局に関しては、第一次合併協議案の中で2拠点体制を提案しているが、1拠点化へのロードマップは先送りせず、今回の最終案の中に入れておくべきであることを提案。（移行期として、3年から5年を目処に検討）大きな問題である事務局職員の雇用。事前に、社会保険労務士に待遇面についても相談を行ない、合併や事務局統合による職員へデメリットが生じることがあってはならないことが指摘された。人員を決める際に必要な事務局業務の棚卸し作業中、繼り次第共有。今後、社会保険労務士同席のもと職員への面談を実施する予定。

・「学会運営業務負担の見える化」については、別途資料を用いて村瀬運営委員長より説明がなされた。新たなシステムを導入することも考えると、3学会合併により一定の効率化は図れるのではないかとのこと。

・4月8日の協議会にて、組織学会からのフィードバック提案をベースに議論し、最終案として取りまとめ、もう一度各学会の理事会に持ち帰り、会員の皆さんに提示していただくか、理事会としての判断を行う。その後、議決権行使。

・議決権行使以前に、会員の皆様へ説明する機会が必要と考えている。可能であれば、年次大会の際に、最終案を提示することができればと思う。残念ながら、会員の多くとはまだ意見交換ができていないのが実情。

・若手から要望いただいている、他2学会の若手との交流についても、共催行事など組織学会から提案したいと考えている。

・仮に議決権行使で合併可となった場合にも準備に一年ぐらいはかかる。しっかりと議論をしたうえではあるが、最終的に議決権行使を行うか、組織学会単独でやっていくのか、あるいは3学会合併に舵を切るのかの判断をこの半年ぐらいで議論したいと考えている。スケジュールについても改めて議論させていただきたい。

2) 各委員会からの報告について

① 運営委員会

・村瀬運営委員長

学会誌掲載 支部・研究委員会活動報告について・・・<資料 8>

→ 4月号に支部の活動報告を掲載。研究委員会については、内規に従い2年に1回活動報告を掲載。今回は5月号、6月号の2号に分けて掲載する。活動状況として、少し停滞が感じられる研究委員会も若干あるため、年次大会期間中に開催する研究委員長会議にて、色々意見をいただき活性化を図ってきたい。

（本件に関する、理事からの意見は議事録後ページ、別紙参照）

② 将来構想委員会

・村瀬運営委員長

→審議事項の通り。

③ 国際連携委員会報告等について

・木村委員長

→官公庁で国際会議に対する潤沢な支援金がある。今回の国際会議開催に向けて、情報収集と、伝手作りもしていきたい。（資料共有あり；観光庁「将来の国際会議主催者育成のための地域・大学連携等促進事業」の公募について）

④ 企画委員会

・濱田委員長

→企画委員会 4月7日(月)オンライン開催予定

→2025 年度組織基礎講座 異理事(WG リーダー)を中心に準備中

開催：7月31日(木)8月1日(金)

開催方法 オンライン（テーマ、講演者については検討、今後順次依頼）

3) 報告・連絡事項

① 東北・北海道支部（支部長 松葉理事）

・令和7年度化学系学会東北大会(共催)2025年9月6日(土)～7日(日)開催

山形大学米沢キャンパス

・2025 年 組織学会秋季研究発表会 山形テルサ(山形市)

2025 年 10 月 27 日(月)～28 日(火)開催

東北・北海道支部を中心に実行委員会を編成中

② 関東支部（支部長 中澤理事）

・2025 年 年次大会準備状況について(通信実行委員長)

参加協力と、広告協賛依頼

③ 東海支部（支部長 永田理事）

・2024 年度 組織学会東海支部講演会(主催)2025 年 3 月 19 日(水)開催報告

参加者は 10 数名、次年度はもう少し早い時期に開催を検討

④ 北陸支部（支部長 末理理事）

・2024 年度 組織学会北陸支部先端技術研究会及び福井大学繊維・マテリアル研究センター研究発表会(主催)2025 年 3 月 18 日(火) 開催報告

・令和7年度組織学会北陸支部学術普及講演会“新しい繊維材料の開発動向”(主催)

2025 年 4 月 17 日(木)開催 福井県工業技術センター 講堂。

⑤ 関西支部（支部長 上高原理事）

・第 39 回関西繊維科学講座“多糖とナノファイバーの基礎と応用最前線”(主催)

2025 年 1 月 28 日(火)開催報告

・関西繊維科学賞の授賞式、受賞講演開催

⑥ 西部支部（支部長 氏家理事）

・第 9 回 組織学会西部支部若手講演会(主催)2025 年 3 月 11 日(火)開催報告

参加者は 30 名以上

・第 53 回夏季セミナー 別府国際コンベンションセンター(ピーコンプラザ)

2025 年 9 月 4 日(木)～5 日(金)開催。

現在準備中、今後、講師依頼など順次手続きを行う予定

⑦ 研究委員会関係について

・感性研究フォーラム研究委員会

第 60 回「感性研究フォーラム」講演会 年間テーマ「ジェンダーと感性」

2025 年 3 月 12 日(水)開催報告

50 名程度が参加、大変盛況だった

4) 編集委員会からの報告について

① 組織学会誌

→ 内田編集委員長より順調に発行されていることが報告された。

② 論説文 JFST

・論文選考委員会

・JFST ISF2024 特集号進捗

→ 武野編集委員長より、投稿が集まりつつある状況が報告された。

5) その他案件

① 学会誌広告掲載計画と協力要請の依頼について・・・<資料 9>

辻井会長、事務局より協力依頼

② タワーホール船堀について

2027 年秋以降から 2028 年 末までとして改修工事期間が決定。2027 年 年次大会利用会場について、正式な検討開始の必要あり。物価高騰の折を受け、区議会や市民からの要望により利用料金、付帯設備料金の値上げについて議論が開始された

③ 今後の理事会日程について

【理事会】

2025 年 5 月 24 日(土)対面開催(京都大学東京オフィス@丸の内)

2025 年 9 月 20 日(土)オンライン開催

2025 年 11 月 15 日(土)オンライン開催

2026 年 1 月 24 日(土)2026 年 3 月 21 日(土)オンライン開催

【総会】

2025 年 6 月 13 日(金)

【監査委員会】

2025 年 4 月 26 日(土)対面開催(東京)

④ 今後の学会行事担当について

*2029 年 6 月 年次大会 別会場手配について要検討

	2025 年	2026 年	2027 年	2028 年	2029 年
年次大会	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部	関東支部
夏季セミナー	西部支部	北陸支部	東海支部	東北・北海道支部	西部支部
秋季研究発表会	東北・北海道支部	関西支部	関西支部	関西支部	関西支部

4. 監事コメント

【大田監事】まず、本日の議論について確認させてください。

総会に諮られる、あるいは会員へ合併協議案の最終案を提案することを決議する理事会が 5 月 24 日になるという理解でよろしいでしょうか？

→ 4月8日の協議会での最終案の取りまとめ時期により、もし5月の理事会で承認をいただけた場合には、6月の年次大会で会員の皆様に説明をしたい。

3学会合併以前に、自分たちの今後のビジョンをしっかりと整備するべきとの会員の皆様からご要望があってスタートしたと承知している。アクションプランが、大分まとまってきたと思います。ただ、三学会合併の議論が進む中、繊維学会のビジョンだけが出ていくのもどうかと思うので、今後の出し方については、理事会でも協議していただきたい。仮に理事会として仮に三学会合併の決議を提案する場合、繊維学会としてあるべきアクションプランの目指す方向性に関して、3学会合併がそのアクションプランにおいて最善の手段であるという論理構成や道筋が必要と思う。

次に秋季研究発表会とISF2024について、非常に成功裡に終えられたこと、関係各位のご尽力に敬意を払います。今回の国際会議を通してコミュニケーションとかネットワークが活発に機能できたことも聞いているが、会議のコンテンツそのものが魅力的であったことも大きいのではないかと考えています(櫻井先生はじめ、若手の先生方のご活躍)をよく解析し、後に残していただきたい。今後、そのノウハウが役立つことになると思う。

【小原監事】

イベントなど滞りなく進められておりますこと、本当にご苦勞です。3学会合併に関する統合のメリットを強調するというのは当然ながら、慎重派や反対派に限らず、会員の不安点は、個別の負担が大きくなることではないかと思う。また財務的にどうかとかというのが今までの理事会や公聴会で多く聞かれた意見であった。統合を機会に、会員の負担を増やさず軽減していく方向であること、また財務的にも改革を進めたい、改善していきたいということが大前提の方針であることをもっとクリアに打ち出してはどうか。それらに加えて、研究委員会活動や支部活動の意義なども一緒に考えていただく、会員の皆さんが不安視されている部分をちょっとしたも払拭できるのではないかと思います。

【土田監事】

最初に、1年間を通じて様々な事業が非常に好調だったということ、聞かれた皆様方には、本当にご苦勞が多かったと思います。どうもありがとうございます。合併検討などでも色々な負担がかかっていると思います。ただ、学会運営のための収入を確保することには非常に重要ですので、行事など運営に関わっていただく皆様には本当に申し訳ないですが、ご努力いただければと思います。次に、支部の議論がされていましたが、支部というのは氏家理事がおっしゃられたように、若手育成には非常に重要な役割を果たすと思います。ただ、支部単位で夏季セミナーや秋季研究発表会などの運営は非常に大変だと思いますので、小さい支部は大きな支部から援助をいただくなども今後検討してはどうか。村瀬運営委員長を中心にまとめでいただいたアクションプランについても、何れ時期がきたら、学会誌やホームページなどで、広く会員の皆様方に展開していただきたい。

【理事意見】

・村瀬理事を中心に将来構想委員会でアクションプランの議論が進んでいるが、他の2学会から将来展望や構想、どういう学会にしたいかが見えていない。このまま繊維学会の将来構想をそのまま押し付けるという話にならない。他の2学会からも将来構想に関する資料を求めてはどうか。それを見た上で、「3学会で共通項が多いので合併しましょう」というのが一番いいストーリーではないか。他2学会がどう考えているのか、現在それは全く見えていないし、聞かせてもこない。

→ 4月8日の合併協議会で検討させていただく。各学会の将来構想の選択肢の一つが合併であるのが、あるべき姿ではないかと思う。

・合併したら効率化できるというロジックが理解できない。今日の説明では、単に繊維機械学会は会員数が少ないのにもかかわらず、ボランティアで多くの会員の方に色々な学会仕事をしていたでいるという姿が見えただけではないか。会員数が仮に1.5倍になったとしても客観的に数字だけで見ると繊維機械学会のような運営の仕方はしちやいけないうことが明確で、効率化するという言い方が、非常にまずいのではないかと。今後は繊維学会の現状の人数でオペレーションができる事業に落とすことになるかと理解していいか？

→ 事業規模は必要なものを積み上げたもの。木村理事のおっしゃる通り、なるべくコンパクトにすることを大前提としている。繊維学会規模でやるというよりは、繊維学会自体も見直しが必要な状況。また、学会にはそれぞれの運営方法があって、一緒になった場合には、課題は解決しながらいいところを取り込んでいくことを目指す。ただし、最終的には1学会としてどうあるべきなのかというところを議論する必要があるのではないかと。

→ 財務プランでは、会費で運営する事業、収支均衡で運営する事業、収益事業に分けて、学会の収益としてどこにいくらか費用をかけていくのか検討。例えば、収支均衡の事業については、暫定的に厳しくなってきたら実施できないという判断になるが、一方でその中には年次大会がある。これについては、収支均衡を目指すものの、非常に重要なコア事業であり、仮に赤字になったとしても実施するという判断となる。その一方で、サービス事業については、運営負担が大きすぎれば実施を取りやめる、あるいは縮小する。

→ やはり、一番大きな問題は事務局経費の問題。事務局が一緒になったからといって、直ちに縮小することはできない状況。社労士さんからの助言もあったように、3年から5年かけて、本来あるべき姿へ持っていくことになる。事務局への業務負担についての議論は今やっておかなければいけない。もちろん、収益から事務局経費が出せないとなれば、3学会合併が難しいという会員判断にもなりえると思う。現状、収益部分は限定的であるが、事業規模を縮小したとしても2事務局体制はある程度維持できると考えている。ただし、それが中長期的にどうかというところ、これは大きな課題であることは間違いない。もう少し踏み込んで議論をしたい。

・繊維機械学会の方たちがしんどいというのはよく聞くので、行事あるいは講演会とかやるために動員をかけているような、負担過多になりかねないビジネスモデルを持ってこれると、皆さんが疲弊するだけではないか。年次大会とかではいい収益事業に関しては、

その原資は会費であり、更に先生や会社の方にボランティアでやっていただくことで継続が困難にもなりかねない。だからその分を事務局経費に充当するっていうふうになると元も子もなく、何がしたいのかという話になる。やはり、身の丈にあった事業計画を立てるべき。

→ そこについては次回の協議会で議論させてもらうよう、留意しておく。特に、今はテキスタイルカレッジが社会的な要請に応えるために学会が担う一つのミッションとして実施しているもの、業務負担が大きければここを見直す。あるいは、会員負担が過度でないことが大前提。それが過度であれば見直すということも必要と理解している。

→ 事務局問題は、2拠点とした場合の固定費として150万ほどプラスになる見直し。人件費についても3,000万は少なくないで、事務局員の人数を含め、どういふようにまかなっていくか協議会での議論が必要。例えば、アカデミア500名規模でコンパクトに運営している学会もあり、その場合は事務局なしというスタンスも選択肢としてはありえる。ただ、繊維学会としては、企業との連携や産学連携が繊維分野としての学会の大きな特徴であるのも事実。ぜひ一つの大きな柱として検討していきたい。

・繊維学会に限らず、特に東北・北海道地区は人が減っている。支部活動を考えたとき、オンラインもハイブリッドもこれだけ使えるようになってくると、支部の意味はどこにあるのかと思うところもある。ただ、合併した後に、他の2学会が東北・北海道地区で全然活動していないのに、今まで通り繊維学会だけが中心に活動するとするとそれともうひとつの意見もある。支部内からは特設合併に関して反対ではないと認識しているが、合併の可否判断がついてから、支部の今後について議論したい。また、財務関係のことはやはり懸念事項であるので、合併協議で慎重に検討いただきたい。

・東海支部では、以前から繊維系3学会で東海地区講演会などを開催。学生発表や懇親も深い情報交換をしている。その立場からすると、もう少し3学会が集まって横のつながりや情報交換、意見交換とかできる機会を増やした方がいいのではないかと考える。合併については、東海支部内でそんなに反対はないと認識しているが、合併した際の支部運営に関する指針は示してほしい。それがあれば、支部の現場でも取組みやすい。

・関西支部の会員は京都が中心。一方、他2学会は大阪中心の運営とのこと。もし合併したとすると関西支部としては人数が増えることが本日の資料でわかった。ただ、逆にいうと今まで全く繋がりがなく、支部がどうも同じ行事を踏襲されていたかも知れない。業務負担を減らす話も出ていたが、今までと同じ行事を踏襲することを主張されるのと、なかなか難しいのではないかと。また、関西地区に事務局を1つ置くとするならば、関西支部の役割もどうなるのか、事務局との関わり方について今は全く考えていない状態。事務局が2つになることで発生する費用や人件費については、以前より不安の声がある通り。例えば、3年から5年の移行期の人件費は繊維機械学会で全部負担した上で合併します、というように形で繊維学会会員に負担させないかと検討してはどうか。高額な人件費を引き継いだ印象のままで、なかなか歩み寄れないのでは。何か施策を持って、繊維学会会員の皆様の理解が得られるような方策なりが練られればいいのでは。

アクションプランについては、辻井会長の進められている繊維学会を魅力的に発信できるのは非常にいいことと思う。その上で、今日も意見があった色々な行事を圧縮し、身の程に合ったものにする意見に賛成。

→ 人件費については、少なくとも学会が一緒になった時には、どこかの固定資産から支出するということではなく、結局一緒になれば同じこと。新しい学会として、その負担をちゃんと引き受けられるかどうかの判断が必要と思う。

・話を聞きながら其々の学会で支部運営も異なるので、西部支部はどうなるのか気になっていた。支部の取り扱いはどこでどう決めるのか、支部からの意見ある程度吸い上げて検討してくださいのか、その方向性が出るという。西部支部内での統合に関する懸念事項として聞くことが多いのはやはり財政面のこと。事務局2拠点のメリットを説明されていたが、通常このサイズの学会の事務局は1拠点であるべきではない。1拠点はなくて、2拠点じゃないと絶対できないことがあるとしたらそれを説明されてはどうか。また、事務局を1拠点にしたら駄目な理由があるのであればそれについても説明されてはどうか。もしそうでないのであれば、最終的に1拠点にするという方針を示していただきたい。そうすれば、反対される方は極端に減るのではないかと。やはり多くが財政面に気にされていることは間違いない。人口減少で会員数が減ることと財政面も大きく関連している。また、主たる行事(年次大会と秋季研究発表会)を残して、それ以外については真っさらで議論し、それについて会員へ意見を求めていいと思う。それと、他2学会を知らない中で統合の話をするのは、2つの全く離れた国が遠隔地にあるにも関わらず一緒に一つの国になるみたいなことを言われていると同じ。どういう考え方をしているのかもわからず、ピンとこないところがある。ぜひ2学会から将来構想も含め、ある程度示してもらった方がいいように感じる。加えて、もし支部を一旦全部解散するようなことがあるのだとしたら、統合時期をちゃんと考えないと、ある程度走ってしまってからどうするかという問題が生じるかと思う。早めに意見を纏められるとよいのではないかと。

→ 支部については、現在の全国網羅型の運営体制が維持できればと考えている。県区分けなどについては、支部役員各位とも相談しながら今後検討したい。

・辻井会長からの説明にあった通り、合併検討にあたり今決めないといけないこと、合併合意後に検討始めること、それから合併して走り出してから決める部分ははっきり分けて話を進めて行くことはとてもいいと思う。そうで無いと、議論が発散してしまつて、何が何かわからなくなってしまうので、ぜひそういう形で進めていただきたい。ぜひ、会員への説明会を年次大会で行っていただき、より多くの会員から理解を得られるように進めていただくことが大切かと思う。それから、学会誌に関しての心配の声もお聞きしており、学会誌アンケートの結果を踏まえて、今後検討、提案ができる形になればいいかと考える。

・JFSTに関しては、知名度が足りないのが大きいと思うので、もし統合した場合には、イベントなどを開催し、PRしていければと思う。支部についても、交流や融合また、異分野交流を図る役割を果たすのに重要と思うので、あった方がいいと感じている。繊維関係が

縮小しているのは明確で、このまま何もしなければ3学会とも一緒に縮小していくのは構造的に当たり前。研究する人も当然少なくなってくることを考えると、学会の立ち位置や新たな展開を考える時を感じる。
→新しいところにも投資できるような財務プランも必要かと思う。

・やはり財源と会員減少の問題が一番かと感じる。今回の合併の話ではやはり事務局をどうするかというのと、イベント運営のところが主な議論と理解している。仮に2事務局体制で合併した後に、その将来展望を明確にしてから進めないといけないという意見に同意する。将来展望について、若手にどういう学会にしたいかを聞くという意見もあったが、かなり年配でもこういった不確実な状況でどういった学会にしたいか、あるいはどういう学会にできるのかをなかなか明確に示せない。意見を聞くことは重要だが、明確に具体的な案が出てこなくてもしょうがないかなと思って意見を聞くぐらいのイメージでいいかというように個人的には思う。

・新学会を作るという意気込みで行きましようとの話だったが、議決権行使後、学会が承認されてからいつ発足するかというところのタイムスケジュールはかなり具体的なものを決めておいた方がいいのではないかなと思う。特に、年次大会などは結構前から準備しており、学会誌も第一号を出す時期なども重要になる。会員減少もたくさん話題担っていたが、何かをやる度にそれを担当した人が消耗していくことがないように、そこをどうカバーできる体制を目指すか検討できればと思う。

・説明の中でもあった産官学連携の重要性を改めて考えた。アクションプランの情報発信にもあるように、組織学会を知らない一般の人も含めて、疑問が生じたら組織学会があるじゃないかと思ってもらえる魅力化をしていければと思う。また、ISF 2024 が非常に成功した裏には、若手会を中心に皆様方のご協力があったこそ。ぜひ次世代の若手をベースに交流し、ぎゅっばらんに今後の学会像なども意見聴取されるといいのではないかな。
→ぜひ、学会を通じて時代を担う方々のネットワークが強化できるようにしたい。

・西部支部に所属するものとしては、支部の役割はとても大事なものの、東京から離れたところにいると、年次大会へ学生全員を連れて行くことはかなりの負担なので、そのような場合に支部が果たす役割は大きい。学生や若手の育成にとって、とても重要な場が学会の支部であり、繋がりでであると認識している。区分けの調整はゼロベースだったとしても是非支部は継続してほしい。

・身の丈にあった事業内容に調整していくのは非常に大事なポイントであり、ぜひその方向で議論していければと思う。その上で、行事や事務局負担をある程度数値化し、工数など明確に示すとこの先いろいろ進めやすくなるのではないかな。

・学会合併のそもそもの起点はおそらく未来を描いていきたい、学術の発展に寄与していきたい、ただ、人やお金の面で苦しいというところではないかな。その上で、やはり財務面

についての議論は非常に重要になってくると考える。3学会ベクトルをきっちりと揃えた上で、こういう財務でいきましようと思っただけの方がいいのでは。その上で、ワーストケースも議論し、どの事業をやるのかやらないかの優先順位を、明確につけてしまっているのか。それがないままでは、合併して進めていくことはできないと思う。

・3学会問題は、一度払拭をして未来につながる学会にしていきたいというところで、課題はいろいろあると思うけれども、指摘や懸念事項となっている部分はぜひ見直して、その上で、メリットを会員に伝えていくところが大事だと思う。事務局問題は然りで、今までの理事会でも公聴会でも多くの会員から質問が出ている。2拠点で行きますという形で話はされてきたが、メリットだけでなく、デメリットもあるはず。この辺をきちんと明示して、皆さんに理解いただけるような形に展開していただきたい。

・みなさんおっしゃるようにやはり財源の問題と人口減少の問題。企業内も予算があり、広告依頼を受けても各学会均一に出しにくい状況も増えてきている。会員への丁寧な説明は必ず必要と思うが、社内でも合併議論が長くなっていることにまだやっているのか？みたいな部分もある。やはり、早めに方向性を出していくことが必要と思っている。ぜひ、前向きなところで議論が進めばと思う。

・基本的には3学会合併に賛成しているが、先に決めること、合併してから決めることの整理がよりできていると、説明などでも脱線しにくい議論ができるのではないかなと思った次第。

デジタルテキスタイルアカデミー基礎編

主 催：ファッションビジネス学会
デジタルテキスタイル研究部会
日 時：2025 年 7 月 18 日(金)
開催方式：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
プログラム：詳細は HP(<https://digitex-bukai.com/event2/>)をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：ファッションビジネス学会
デジタルテキスタイル研究部会
E-mail：info@digitaltextileresearch.com

日本女子大学 家政学部被服学科(感性工学) 専任教員 募集

専門分野：感性工学
職名・募集人員：専任教員(教授または准教授)1 名
採用予定日：2026 年 4 月 1 日
応募締切日：2025 年 7 月 31 日(木)必着
詳細：https://corp.jwu.ac.jp/news/entry/20250602_00272.html
問合先：日本女子大学 家政学部 被服学科
学科長 榎本一郎
E-mail：enomotoi@fc.jwu.ac.jp

第 48 回(2026 年度)公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学振興財団 学術研究募集

主 催：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学
振興財団
詳細：https://www.descente.co.jp/ishimoto/
応募締切日：2025 年 7 月 31 日(木)必着
問合先：公益財団法人 石本記念デサントスポーツ科学
振興財団 編集局
TEL：080-1499-1719
E-mail：zaidan@descente.co.jp

第 38 回におい・かおり環境学会

主 催：におい・かおり環境協会
日 時：2025 年 8 月 27 日(木)～28 日(木)
会 場：福岡女子大学
プログラム：詳細は HP(<https://orea.or.jp/>)をご参照
ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：公益社団法人 におい・かおり環境協会
学会事務局(石井)
TEL：03-6233-9011 FAX：03-6862-8854
E-mail：info@orea.or.jp

第 61 回炭素材料夏季セミナー

主 催：炭素材料学会次世代の会
日 時：2025 年 9 月 11 日(木)～12 日(金)
会 場：草津温泉ホテルヴィレッジ
プログラム：詳細は HP(<https://seminar61.events.gunma-u.ac.jp/>)をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：炭素材料学会次世代の会
E-mail：ishii@gunma-u.ac.jp

公益財団法人 ポリウレタン国際技術振興財団 第 11 回(令和七年度)研究助成募集

助成対象の研究分野：
①先進技術への応用、②環境負荷の低減及び素材循環の促進、③異素材との複合による高機能化、④機能材料開発、⑤機能、特性等の評価・分析技術
対象の研究者は、大学・公的研究機関等に所属する個人を対象とします。
助成金額：①一般研究助成：1 研究当たり 100 万円、4 件②海外研究者奨励研究助成：1 研究当たり 50 万円、4 件
募集詳細：https://www.pu-zaidan.jp/guide.html
応募締切：2025 年 9 月 30 日(火)17 時必着
問合先：公益財団法人 ポリウレタン国際技術振興財団
事務局 平山
TEL：050-3135-8998 FAX：0566-98-5037
E-mail：info@pu-zaidan.jp

第 46 回日本熱物性シンポジウム

主 催：日本熱物性学会
日 時：2025 年 10 月 8 日(水)～10 日(金)
会 場：一般講演・特別講演・総会：アバンセ(佐賀県立男女共同参画センター・生涯学習センター)
意見交換会：ホテルグランデはがくれ
プログラム：詳細は HP(<https://www.jstp-symp.org/symp2025/>)をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：佐賀大学理工学部 機械工学部門内
E-mail：info2025@jstp-symp.org

第 44 回無機高分子研究討論会

主 催：高分子学会 無機高分子研究会
日 時：2025 年 11 月 13 日(木)～14 日(金)
会 場：京都工芸繊維大学 60 周年記念館 2 階
プログラム：詳細は HP(https://www.spsj.or.jp/group/group_494.html)をご参照ください。
申込方法：上記 HP よりお申込みください。
問合先：高分子学会 無機高分子研究会係
TEL：03-5540-3770 FAX：03-5540-3737
E-mail：resg2@spsj.or.jp

The 27th IFATCC Congress 2026

主 催：AEQCT(IFATCC 内)
日 程：2026 年 9 月 29 日(火)～10 月 1 日(木)
場 所：バルセロナ(スペイン)